

夕張市学校施設等長寿命化計画

令和 3 年 3 月

夕張市教育委員会

夕張市学校施設等長寿命化計画

< 目 次 >

序 章	計画策定の目的等	
1	計画の目的と計画期間-----	1
2	計画対象施設-----	2
3	学校施設の目指すべき姿-----	4
第1章	夕張市の学校施設等を取り巻く状況	
1	夕張市の概要-----	5
2	人口・世帯数の動向-----	7
3	上位・関連計画の状況-----	9
第2章	施設の状況	
1	対象施設の概要-----	14
2	児童生徒数および学級数-----	15
3	施設の保有量-----	16
4	施設関連経費の推移-----	18
5	学校施設等の劣化状況-----	20
第3章	学校施設等整備の基本的な方針	
1	学校施設等を取り巻く状況の整理-----	38
2	施設整備の基本的な方針-----	39
3	改修等の基本的な方針-----	41
4	基本的な方針を踏まえた施設整備の水準等-----	44
第4章	長寿命化の実施計画	
1	改修等の優先順位づけと実施計画-----	46
2	長寿命化の継続的運用方針-----	49

序 章 計画策定の目的等

1 計画の目的と計画期間

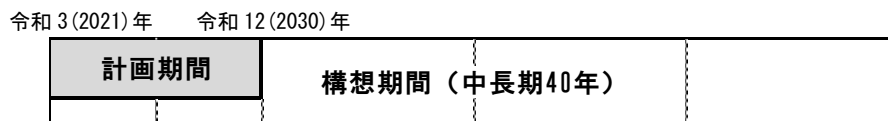
(1) 背景と目的

夕張市（以下「本市」という。）では、公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって施設の更新、統廃合及び長寿命化などを計画的に行うことにより財政負担を軽減・平準化させ、公共施設等の最適な配置の実現に向けて、平成 28 年（2016 年）3 月に「夕張市公共施設総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）」を策定したところです。

市内の学校施設及び社会教育施設、体育施設等（以下「学校施設等」という。）についても、総合管理計画における公共施設等マネジメント基本方針に基づき、中長期的な維持管理等トータルコストの縮減を図りつつ、学校施設等に求められる機能及び性能を確保するため、「夕張市学校施設等長寿命化計画（以下「本計画」という。）」を策定します。

(2) 計画期間

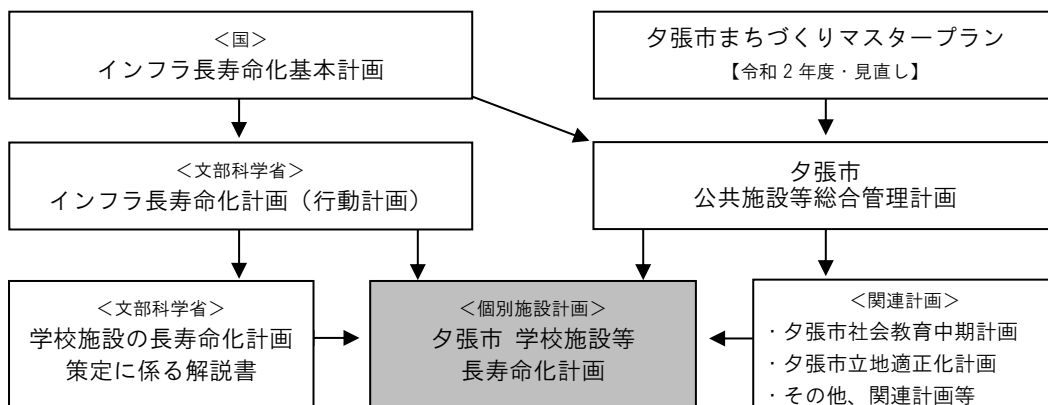
本計画は長期的な維持管理の視点により、構想期間を 40 年、計画期間を令和 3（2021）年度から令和 12（2030）年度までの 10 年間とします。



(3) 計画の位置づけ

本計画は、夕張市まちづくりマスタープランをはじめとする上位計画及び関連計画のほか、国等の計画とも整合を図り策定します。

図表 計画の位置づけ

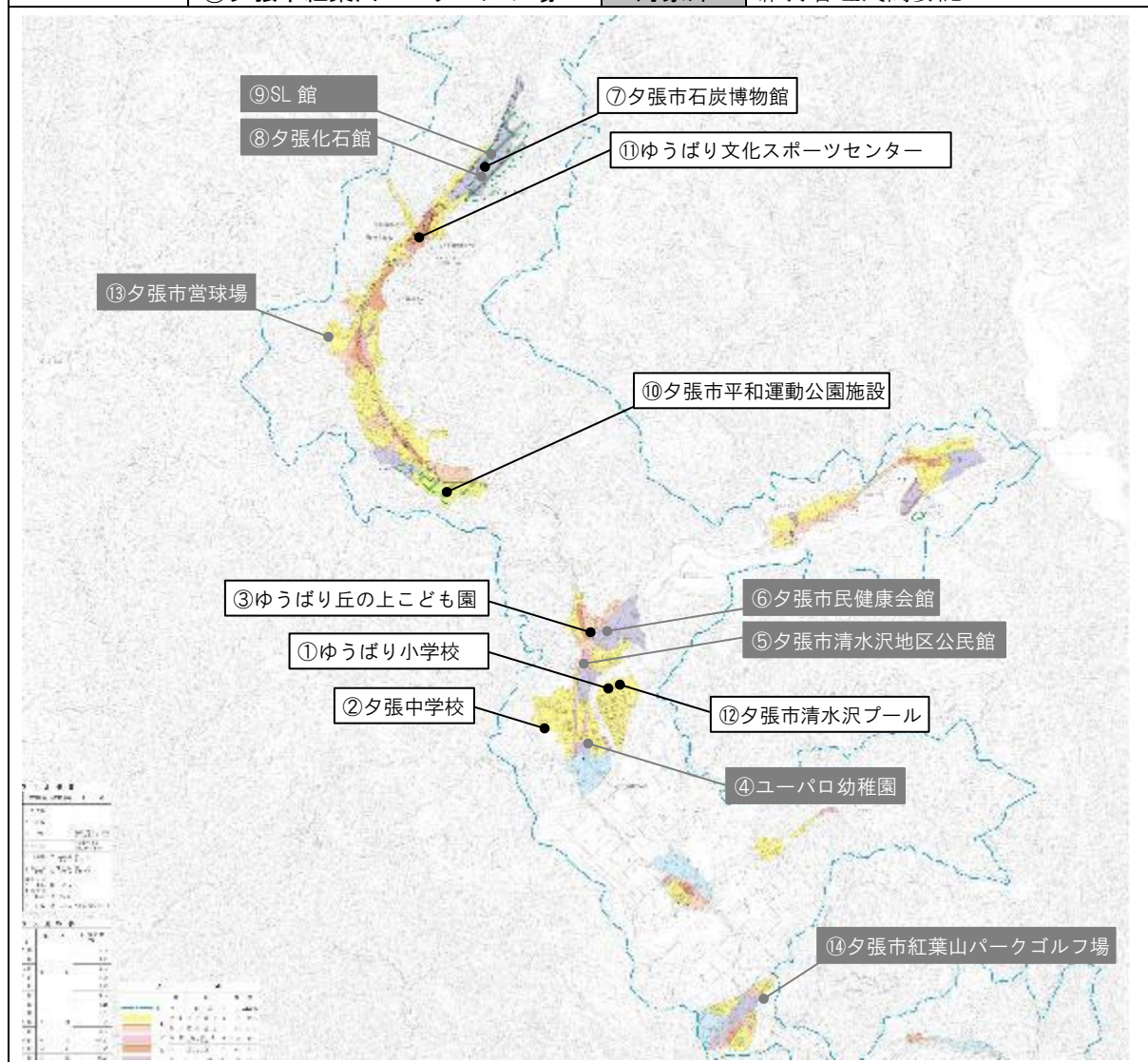


2 計画対象施設

本計画の対象施設は、次の図表（計画対象施設の整理）を踏まえ、学校教育系施設等の計7施設とします。

図表 計画対象施設の整理

対象施設候補		活用方針	
学校教育系施設	①ゆうばり小学校	維持管理	統合校として改修済
	②夕張中学校	維持管理	統合校として改修済
子育て支援施設	③ゆうばり丘の上こども園	維持管理	R2年新築整備
	④ユーパロ幼稚園	用途廃止	認定こども園に機能統合
市民文化施設	⑤夕張市清水沢地区公民館	用途廃止	「りすた」に機能統合
	⑥夕張市民健康会館	廃止検討	老朽化により用途廃止(未耐震化)
社会教育系施設	⑦夕張市石炭博物館	維持管理	長期活用施設として改修済
	⑧夕張化石館	活用検討	石炭博物館と機能統合
	⑨SL館	廃止検討	施設は老朽化により廃止検討 (※展示物は活用方針検討)
スポーツレクリエーション系施設	⑩夕張市平和運動公園施設	維持管理	長期活用施設として維持管理
	⑪ゆうばり文化スポーツセンター	維持管理	長期活用施設として維持管理
	⑫夕張市清水沢プール	維持管理	長期活用施設として維持管理
	⑬夕張市営球場	廃止検討	平和運動公園に機能統合
	⑭夕張市紅葉山パークゴルフ場	対象外	維持管理民間委託



図表 本計画の対象施設

	対象施設	所在
学校教育系施設	1. ゆうばり小学校	夕張市清水沢清陵町 14 番地
	2. 夕張中学校	夕張市南清水沢 3 丁目 63 番地
子育て支援施設	3. ゆうばり丘の上こども園	夕張市清水沢 3 丁目
社会教育系施設	4. 夕張市石炭博物館	夕張市高松 7 番地
スポーツレクリエーション系施設	5. 夕張市平和運動公園施設	夕張市平和 1 番地
	6. ゆうばり文化スポーツセンター	夕張市若葉 2 番地
	7. 夕張市清水沢プール	夕張市清水沢清陵町 14 番地

図表 本計画の対象外施設 7 施設

1 ユーパロ幼稚園	2 夕張市清水沢地区公民館
	
3 夕張市民健康会館	4 夕張化石館
	
5 S L 館	6 夕張市営球場
	
7 夕張市紅葉山パークゴルフ場	
	

3 学校施設のめざすべき姿

学校施設のめざすべき姿は、今後の学校施設整備の取組みにおいて実現すべき目標像となります。以下は文部科学省の諮問会議等において「安全性」「快適性」「学習活動への適応性」「環境への適応性」「地域の拠点化」の観点により示されたものですが、以下の項目を目標像の基本とし、適切な改築や改修等の施設整備を行います。

図表 学校施設の目指すべき姿（学校施設整備基本構想の在り方について H25 年 3 月）

1 安全性	
◆災害対策	◇地震・津波・洪水に強い学校施設 ◇防災機能を備えた学校施設
◆防犯・事故対策	◇安全で安心な学校施設
2 快適性	
◆快適な学習環境	◇学習能率の向上に資する快適な学習環境 ◇バリアフリーに配慮した環境 ほか
◆教職員に配慮した環境	◇教職員に配慮した空間 ◇教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要な ICT 環境 ほか
3 学習活動への適応性	
◆主体性を養う空間の充実	◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間 ◇子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間 ◇社会性を身に付けるための空間 ほか
◆効果的・効率的な施設整備	◇習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間 ◇調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間 ◇各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための ICT 環境 ◇各教科等の授業を充実させるための環境
◆言語活動の充実	◇各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間 ◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための ICT 環境
◆理数教育の充実	◇充実した観察・実験を行うための環境
◆運動環境の充実	◇充実した運動ができる環境
◆伝統や文化に関する教育の充実	◇伝統や文化に関する教育を行うための環境
◆外国語教育の充実	◇外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間
◆学校図書館の活用	◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇地域の生涯学習の拠点となる学校施設 ほか
◆キャリア教育・進路指導の充実	◇充実したキャリア教育・進路指導を行うための環境
◆食育の充実	◇食育のための空間
◆特別支援教育の推進	◇バリアフリーに配慮した環境 ◇自閉症、情緒障害又は ADHD 等のある児童生徒に配慮した学校施設
◆環境教育の充実	◇地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール
4 環境への適応性	
	◇環境を考慮した学校施設（エコスクール）
5 地域の拠点化	
	◇安全で安心な学校施設 ◇バリアフリーに配慮した環境 ◇地域に開かれた学校とするための環境 ◇地域の生涯学習の拠点となる学校施設

第1章 夕張市の学校施設等を取り巻く状況

1 夕張市の概要

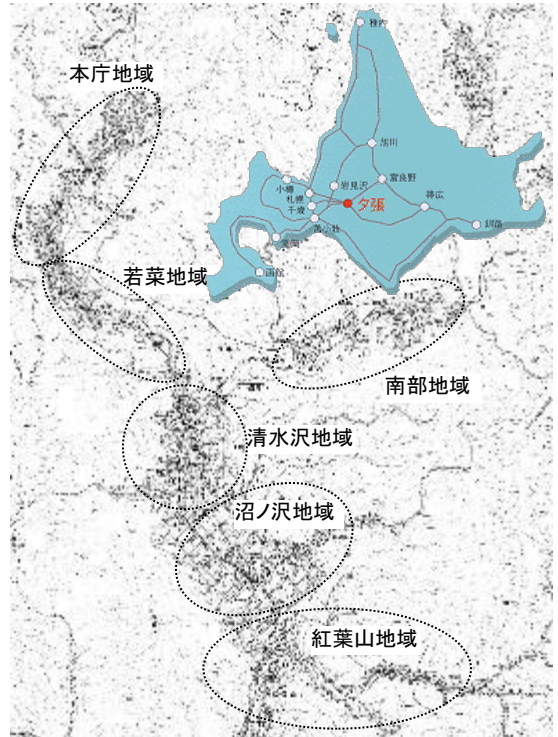
(1) 位置・面積・気象

夕張市は北海道のほぼ中央、空知地方の南部に位置し、市域は東西 24.89km、南北 34.71km、面積は 763.07km² で夕張市一帯は夕張山地の豊かな森林や清流に育まれた丘陵であり、夕張岳 (1,668m) から流れる夕張川とその支流が市内のほぼ中央を貫き、流域に沿って帯状に市街地が形成されています。

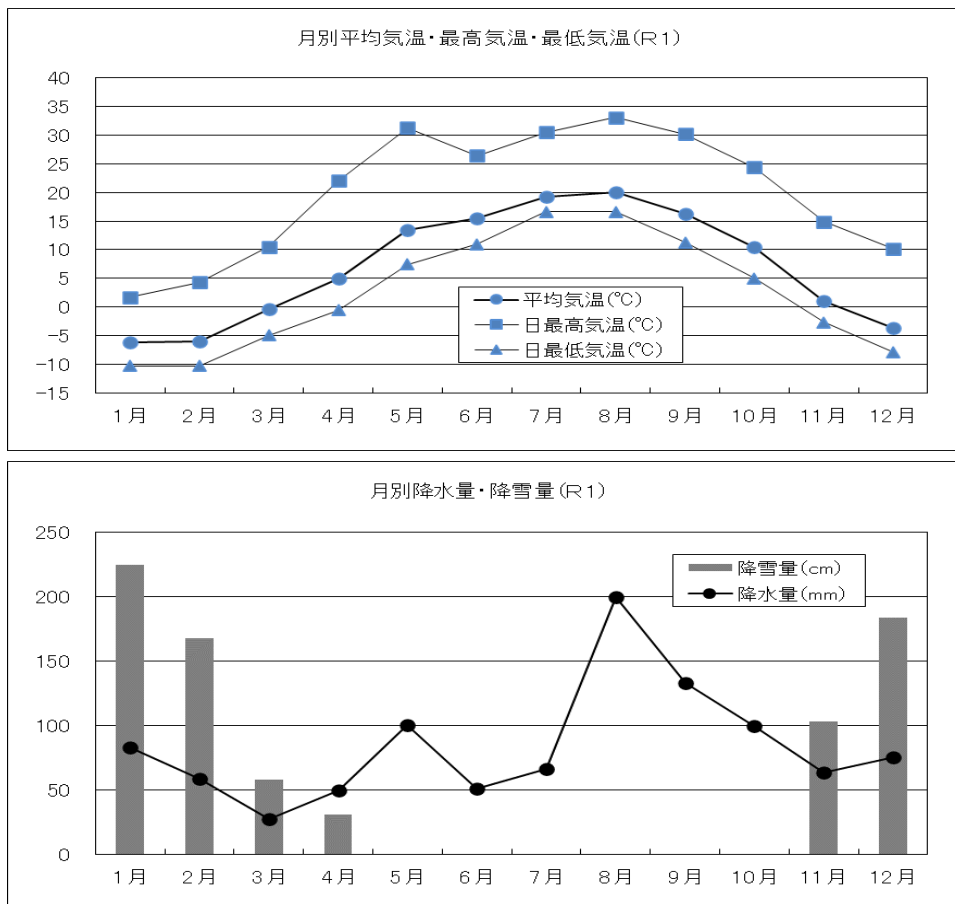
山や丘陵に囲まれた地形的特徴から、四季の変化や昼夜の気温の変化が大きく、また、風はまわりの山々にさえぎられ弱められています。降水量は本道の平均的な量ですが、積雪量は近年減少傾向にあるものの、道内の他地域と比較すると多いことが特徴として挙げられます。

令和元年のデータでは、年平均気温 7.1℃、最高気温 33.1℃、最低気温 -10.3℃、降水量 1,005.5mm、最深積雪 166cm であり、月別平均気温・最高気温・最低気温、降水量・降雪量は下図となっています。

図表 夕張市の位置及び地域構成



図表 夕張市の気象概況 (令和元年)



(2) 沿革と学校施設の変遷

夕張市は明治7年(1874年)、アメリカ人鉱山地質学者ベンジャミン・スミス・ライマンの探検隊が夕張川上流の炭鉱地質を調査、その後明治21年(1888年)、道庁の技師坂市太郎が志幌加別川の上流で石炭の大露頭を発見したことから「炭鉱の街夕張」の歴史が始まりました。

明治24年(1891年)の炭鉱開始以来、炭鉱の街として栄え、昭和18年(1943年)には市制が施行されました。

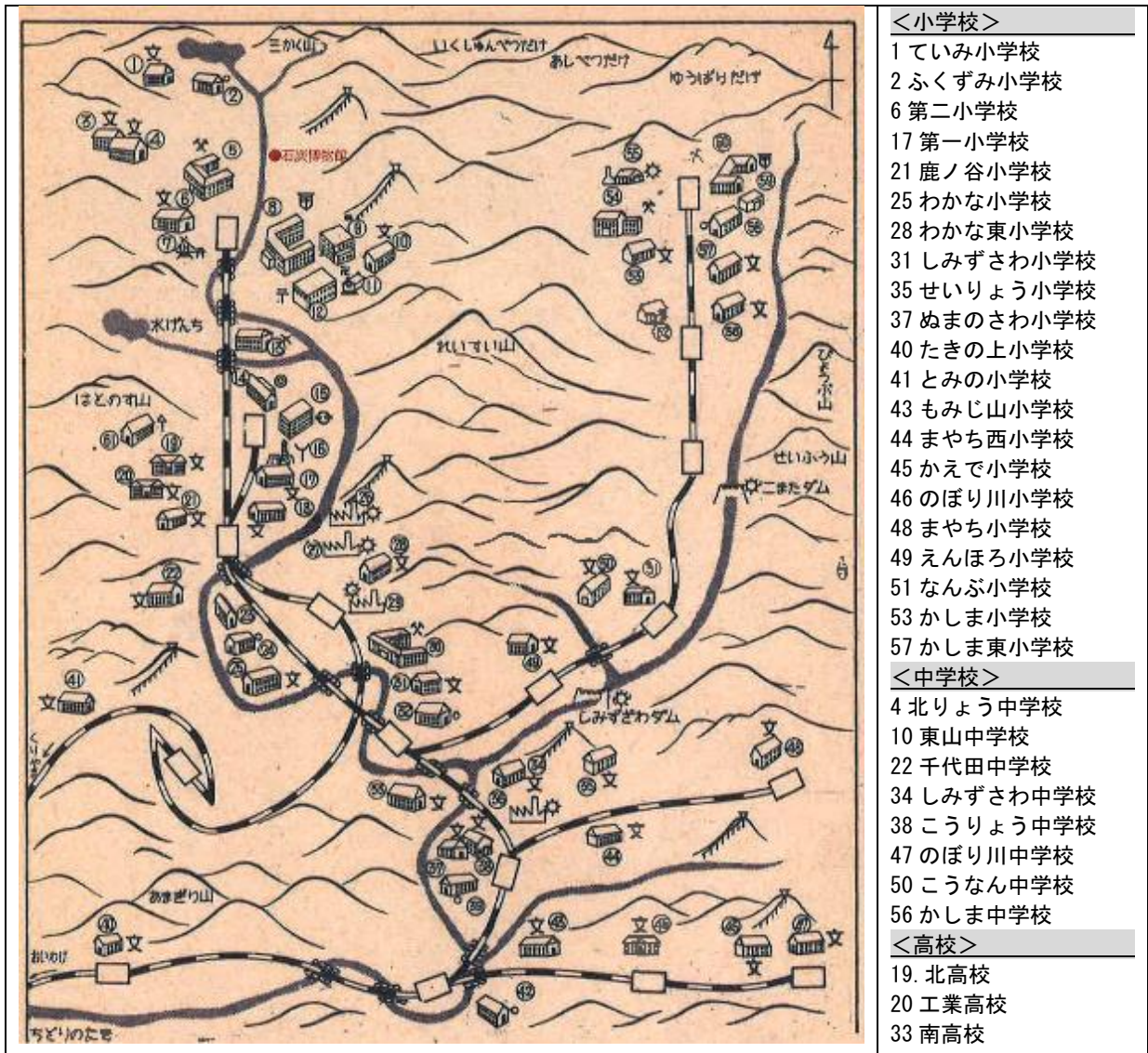
一時は大小24の鉱山、人口約12万人を数え、昭和34年(1959年)当時には小学校21校、中学校8校が配置されていました。

その後、昭和48年(1973年)の三菱大夕張炭鉱の閉山以降、市内の炭鉱が相次いで閉山。平成2年(1990年)3月、最後の炭鉱が閉山し本市から石炭産業は完全に消滅し、「炭鉱の街夕張」としての歴史に幕を閉じるとともに、当時の人口は約2万人まで激減しました。

このような、歴史的経過の中で、石炭産業から観光産業への転換の滞りや社会・経済状況の変化等により、本市は平成19年(2007年)に財政再建団体、平成22年(2010年)には財政再生団体の指定を受けることとなりました。

この間、小中学校においても統廃合が進められ、現在ではゆうばり小学校(旧清水沢小学校)と夕張中学校のそれぞれ1校となっています。

図表 わたしたちの夕張(抜粋)[夕張市教育研究所1959発行]



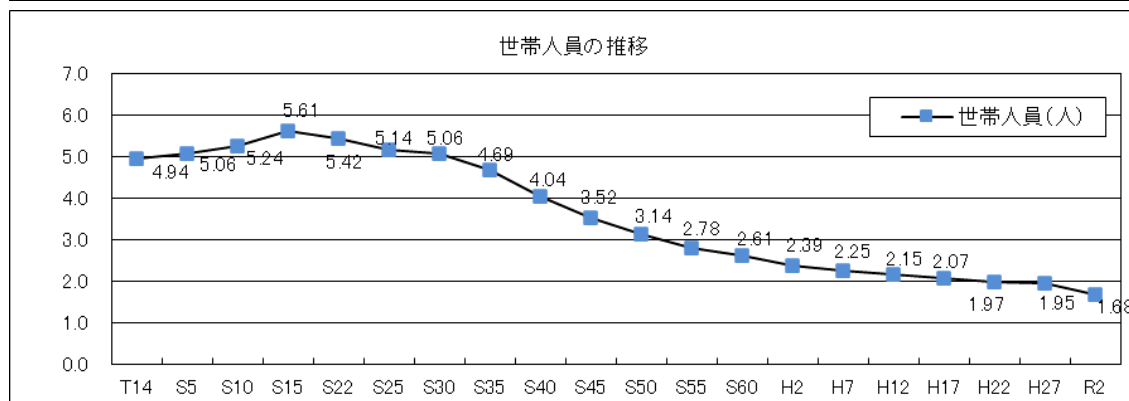
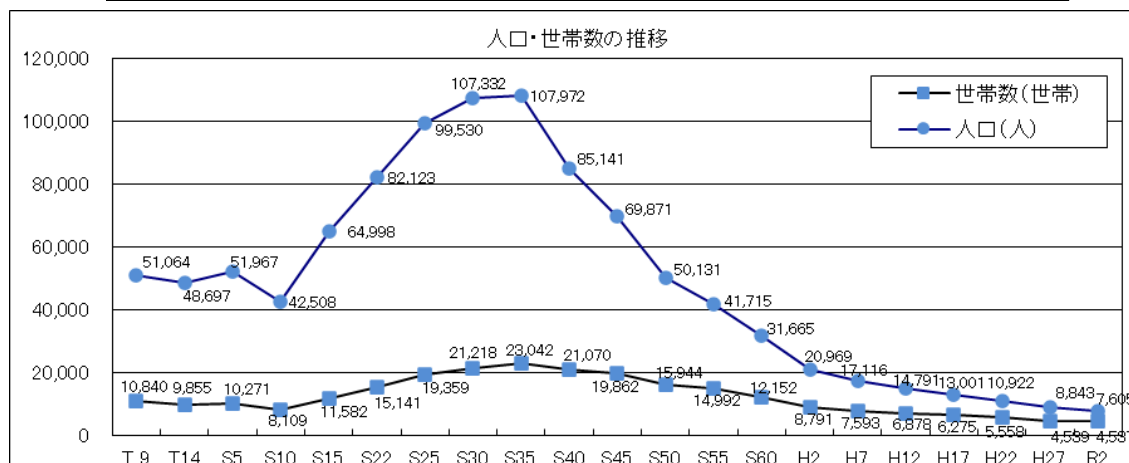
2 人口・世帯数の動向

(1) 人口・世帯数

人口・世帯数は昭和35年(1960年)をピークにともな減少傾向にあり、平成2年(1990年)以降はその変化は緩やかになっています。令和2年(2020年)8月末現在の住民基本台帳の人口は7,605人、世帯数は4,537世帯であり、平成27年(2015年)に対し、人口は14%の減少、世帯数は横ばいとなっています。

図表 人口・世帯数の推移(各年国勢調査 ※R2年は住民基本台帳)

年次	世帯数	人口			世帯人員
		総数	男	女	
大正9年	10,840	51,064	27,340	23,724	4.71
14年	9,855	48,697	26,193	22,504	4.94
昭和5年	10,271	51,967	27,266	24,701	5.06
10年	8,109	42,508	22,144	20,364	5.24
15年	11,582	64,998	35,983	29,015	5.61
22年	15,141	82,123	43,812	38,311	5.42
25年	19,359	99,530	52,337	47,193	5.14
30年	21,218	107,332	54,850	52,482	5.06
35年	23,042	107,972	54,892	53,080	4.69
40年	21,070	85,141	42,525	42,616	4.04
45年	19,862	69,871	34,682	35,189	3.52
50年	15,944	50,131	24,650	25,481	3.14
55年	14,992	41,715	20,715	21,000	2.78
60年	12,152	31,665	15,628	16,037	2.61
平成2年	8,791	20,969	10,078	10,891	2.39
7年	7,593	17,116	8,127	8,989	2.25
12年	6,878	14,791	6,952	7,839	2.15
17年	6,275	13,001	6,114	6,887	2.07
22年	5,558	10,922	5,179	5,743	1.97
27年	4,539	8,843	4,092	4,751	1.95
令和2年	4,537	7,605	3,506	4,099	1.68



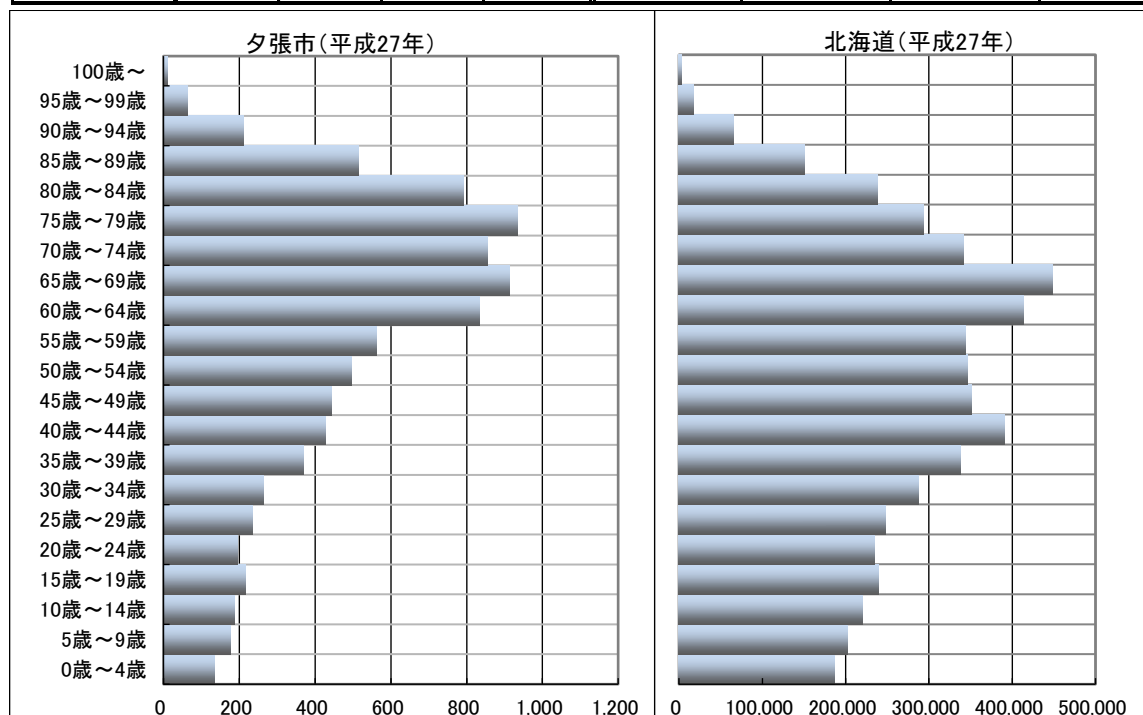
(2) 年齢別人口

平成27年(2015年)の65歳以上の人口は4,296人であり、全体の48.6%を占めています。北海道全体の29.1%を大きく上回っています。また、年齢構造を見ると、全道では65～69歳人口が最も多いのに対し、夕張市では75～79歳人口が最も多い層となっています。

また、0～14歳の割合は全道が11.4%であるのに対し、5.7%と大きく下回っていることが特徴となっています。

図表 年齢別人口/5歳階級(平成27年国勢調査)

区分	夕張市				北海道			
	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比
総数	8,843	4,092	4,751	100.0%	5,381,733	2,537,089	2,844,644	100.0%
0歳～4歳	135	65	70	1.5%	186,010	95,022	90,988	3.5%
5歳～9歳	177	88	89	2.0%	202,269	103,549	98,720	3.8%
10歳～14歳	188	88	100	2.1%	220,017	111,816	108,201	4.1%
15歳～19歳	216	114	102	2.4%	239,098	123,196	115,902	4.4%
20歳～24歳	196	109	87	2.2%	234,274	117,965	116,309	4.4%
25歳～29歳	235	118	117	2.7%	247,587	123,076	124,511	4.6%
30歳～34歳	265	136	129	3.0%	287,674	141,876	145,798	5.3%
35歳～39歳	370	198	172	4.2%	337,369	166,514	170,855	6.3%
40歳～44歳	427	215	212	4.8%	391,243	193,093	198,150	7.3%
45歳～49歳	443	247	196	5.0%	350,794	169,252	181,542	6.5%
50歳～54歳	497	246	251	5.6%	345,836	165,634	180,202	6.4%
55歳～59歳	562	296	266	6.4%	343,884	165,353	178,531	6.4%
60歳～64歳	834	411	423	9.4%	413,045	195,920	217,125	7.7%
65歳～69歳	913	418	495	10.3%	448,646	207,461	241,185	8.3%
70歳～74歳	856	337	519	9.7%	341,850	151,031	190,819	6.4%
75歳～79歳	935	404	531	10.6%	293,306	124,921	168,385	5.5%
80歳～84歳	793	331	462	9.0%	238,663	95,987	142,676	4.4%
85歳～89歳	514	187	327	5.8%	149,960	51,414	98,546	2.8%
90歳～94歳	210	64	146	2.4%	65,902	16,786	49,116	1.2%
95歳～99歳	63	18	45	0.7%	17,225	3,247	13,978	0.3%
100歳～	12	0	12	0.1%	2,835	439	2,396	0.1%
不詳	2	2	0	0.0%	24,246	13,537	10,709	0.5%
0歳～14歳	500	241	259	5.7%	608,296	310,387	297,909	11.4%
15歳～64歳	4,045	2,090	1,955	45.7%	3,190,804	1,561,879	1,628,925	59.6%
65歳～	4,296	1,759	2,537	48.6%	1,558,387	651,286	907,101	29.1%



出典：平成27年国勢調査

3 上位・関連計画の状況

(1) インフラ長寿命化基本計画

[平成 25 年(2013 年)11 月 インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議]

インフラ長寿命化基本計画は、高度成長期以降に集中的に整備されたインフラの加速度的な老朽化に向け、戦略的な維持・管理・更新等を推進することを目的に策定されています。

図表 インフラ長寿命化基本計画の概要

<計画の目的>	
<ul style="list-style-type: none"> ◇個別施設毎の長寿命化計画を核として、メンテナンスサイクルを構築 ◇メンテナンスサイクルの実行や体制の構築等により、トータルコストを縮減・平準化 ◇産学官の連携により、新技術を開発・メンテナンス産業を育成 	
<計画の概要>	
[1. 目指すべき姿]	
<ul style="list-style-type: none"> ◆安全で強靱なインフラシステムの構築 ◆総合的・一体的なインフラマネジメントの実現 ◆メンテナンス産業によるインフラビジネスの競争力強化 	
[2. 基本的な考え方]	
◆インフラ機能の確実かつ効率的な確保	
<ul style="list-style-type: none"> ➢メンテナンスサイクルの構築や多段階の対策により、安全・安心を確保 ➢予防保全型維持管理の導入、必要性の低い施設の統廃合等によりトータルコストを縮減・平準化し、インフラ投資の持続可能性を確保 	
◆メンテナンス産業の育成	
<ul style="list-style-type: none"> ➢産学官連携の下、新技術の開発・積極公開により民間開発を活性化させ、世界の最先端へ誘導 	
◆多様な施策・主体との連携	
<ul style="list-style-type: none"> ➢防災・減災対策等との連携により、維持管理・更新を効率化 ➢政府・産学界・地域社会の相互連携を強化し、限られた予算や人材で安全性や利便性を維持・向上 	
[3. 計画の策定内容]	
◆インフラ長寿命化計画（行動計画）	
<ul style="list-style-type: none"> ➢計画的な点検や修繕等の取組を実施する必要性が認められる全てのインフラでメンテナンスサイクルを構築・継続・発展させるための取組の方針 (対象施設の現状と課題/維持管理・更新コストの見通し/必要施策に係る取組の方向性 等) 	
◆個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）	
<ul style="list-style-type: none"> ➢施設毎のメンテナンスサイクルの実施計画 (対策の優先順位の考え方/個別施設の状態等/対策内容と時期/対策費用 等) 	
<必要施策の方向性>	
点検・診断	定期的な点検による劣化・損傷の程度や原因の把握 等
修繕・更新	優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施 等
基準類の整備	施設の特性を踏まえたマニュアル等の整備、新たな知見の反映 等
情報基盤の整備と活用	電子化された維持管理情報の収集・蓄積、予防的な対策等への利活用 等
新技術の開発・導入	ICT、センサー、ロボット、非破壊検査、補修・補強、新材料等に関する技術等の開発・積極的な活用 等
予算管理	新技術等の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化 等
体制の構築	[国] 技術等の支援体制の構築、資格・研修制度の充実 [地方公共団体] 維持管理・更新部門への人員の適正配置、国の支援制度等の積極的な活用 [民間企業] 入札契約制度の改善 等
法令等の整備	基準類の体系的な整備 等

(2) 文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）[平成27年（2015年）3月]

文部科学省インフラ長寿命化計画は、国のインフラ長寿命化基本計画に基づき、平成26年（2014年）～令和2年度（2020年度）を計画期間とし、文部科学省が所管又は管理する施設の長寿命化に向け、中期的な取組の方向性を明らかにすることを目的に策定されています。

図表 文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）の概要

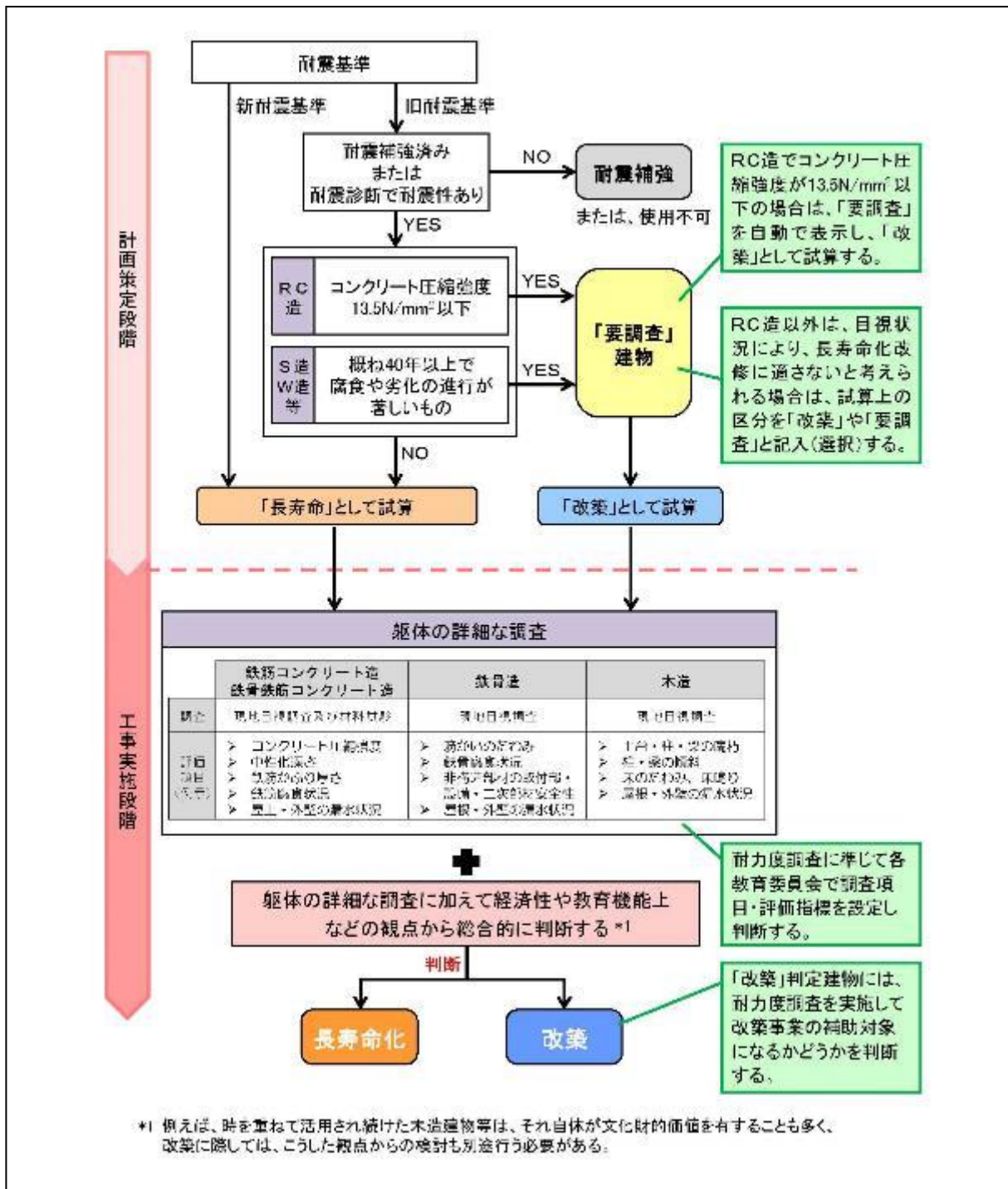
<計画の範囲>	
<ul style="list-style-type: none"> ◆対象施設：維持管理等に関する公財政支出があり、多数の国民を受け入れる施設 (国公立学校施設、公立社会教育施設、施設運営型独立行政法人、庁舎等) ◆計画期間：平成26（2014）～令和2（2020）年度 	
<目指すべき姿>	
<ul style="list-style-type: none"> ◆各設置者における「メンテナンスサイクル」（①定期的な点検・診断、②計画策定、③計画に基づく対策の実施）の構築 ◆これまでの改築中心から長寿命化への転換による、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減 ◆行動計画・個別施設計画の策定を通じた予算の平準化 	
<現状・課題>	
<ul style="list-style-type: none"> ◆第2次ベビーブームに対応して整備された学校施設等について、今後、急速な老朽化と整備需要の急増が予想 ◆建築基準法に基づく点検・診断の実施状況等について地域差が存在 ◆児童生徒等の安全性の確保はもとより、教育研究活動の高度化・多様化やバリアフリー・省エネ等に対応した機能の向上も必要 ◆厳しい財政状況等により対策が十分に行われていないおそれ 	
<取組の方向性>	
点検・診断の着実な実施	地域差のない点検の着実な実施を要請、点検実施の手引を作成・提供
個別施設計画の策定	個別施設計画策定の手引の作成・提供等により各設置者の取組を促進
対策の着実な実施	個別施設計画に基づく着実な取組を促進
予算管理	トータルコスト縮減・予算の平準化の促進、必要な予算の安定的な確保
指針・手引の策定	「点検・診断」「計画」「対策」の各段階に対応する指針・手引の整備・充実
体制の構築	体制構築の重要性・手段等に関する周知、先駆的事例の普及啓発
情報基盤の整備及び活用	施設に関する情報の蓄積・共有の有用性に関する普及啓発
新技術の開発・導入	非破壊診断技術・新材料に関する研究開発、導入段階に至った新技術の周知

(3) 学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書 [平成29年(2017年)3月 文部科学省]

学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書は、文部科学省によるインフラ長寿命化計画(行動計画)に基づき、各地方公共団体において学校施設を対象とした長寿命化計画が早期に策定されるよう、計画に盛り込むべき事項や、それらを検討する上での留意事項等を示すものとして作成されています。

なお、本解説書では、計画策定のための建物情報を整理するにあたり、「①学校施設の全体把握」、「②老朽化状況の把握」、「③今後の維持・更新コストの把握」、「④直近の整備計画の策定」の4段階が示されています。

図表 長寿命化の判定フロー



(4) 夕張市公共施設等総合管理計画 [平成28年(2016年)3月]

夕張市公共施設等総合管理計画は、平成28年度(2016年度)から令和7年度(2025年度)までの10年間の計画期間とし、急激な人口減少などによる市税収入の減少や社会保障費の負担増などを考慮した、公共施設等の全体的な運用や指針の策定による、計画的なマネジメントの実施を目的に策定しています。

■公共施設等マネジメント基本方針	
夕張市公共施設等 マネジメント基本方針	◆超高齢化、人口減少社会を直視し、地域コミュニティの存続を図りながら既存ストックを活用した、都市機能の再編、集約化を図る。また、都市経営コストを軽減するためコンパクトなまちづくりを推進する。
＜公共施設等の管理＞	
(1)長期的視点に立った老朽化対策の推進	◇長期的な維持管理・更新等のコストを踏まえつつ、安全性や経済性、重要性の観点から必要性が認められる優良な施設を選定し、集約化や長寿命化を積極的に図る。
(2)適切な維持管理、修繕の実施	◇把握可能な情報に基づき、中長期的なコストを明示し、必要な施設の現状と課題に照らし、必要性が高いと判断される事項について取組を具体化する。
(3)トータルコストの縮減、平準化	◇今後、全ての公共施設(建物)の総量を維持することは困難であることから、保有する公共施設を大幅に削減することが必要となる。その削減率については、今後の人口推移を目安とし、全国平均である一人当たり床面積3.52㎡を基準とし、将来的なトータルコストの縮減、平準化を目指す。 ◇夕張市43.28㎡/人→3.52㎡/人※現在の施設数を1/12に削減
(4)計画の不断の見直し、充実	◇本計画の推進にあつては、まちづくり企画室が主担当となり、各公共施設の担当課との連携を図りながら、統括的に進行管理、検証を行っていく。 ◇計画期間は当面10年間とするが、膨大なストックを抱えていることから、早期に個々の施設の方向性を決定し、総量の縮減を図る必要がある。また、財政再生の状況を踏まえ、随時、計画を見直し、公共施設管理の基本的な考え方の浸透、各施設のあり方の検討の推進をしていく必要がある。
＜国土強靱化＞	
(1)計画的な点検、診断	◇国土強靱化の対象施設について、計画的な点検、修繕等を実施していくため現状課題、維持管理・更新コストの見通し、必要施策に係る取組の方向性などのメンテナンスサイクルを構築・継続・発展させる。
(2)修繕、更新の履歴の集積、蓄積	◇点検結果等を踏まえ、適宜更新するとともに、知見やノウハウの蓄積を進め、計画期間の長期化を図り中長期的なコストの見通しの精度を向上させる。
(3)公共施設の安全性の確保	◇人命の安全性の確保、施設が環境に与える負荷を最小限に抑えることや施設の果たすべき機能が長期に最大限発揮されることを確保する。
(4)耐震化の推進	◇災害時に重要な機能を果たす施設として、災害時の指揮命令等の中枢拠点となる市役所庁舎や消防本部、人命救助の主要な拠点となる市立診療所、さらに避難所等に指定されている学校や生活館等がある。これらの施設については、耐震診断や老朽度を踏まえた大規模改修、建替えの検討を行うなどにより早急に耐震化を推進していく。

(5) 第6次夕張市社会教育中期計画 [平成29年(2017年)3月]

第6次夕張市社会教育中期計画は、平成29年度(2017年度)から令和3年度(2021年度)までの5年間を計画の期間とし、夕張市民憲章や本市の財政状況、国及び北海道の教育の流れを踏まえながら、これからの本市の社会教育の方向性を明らかにすることを目的に策定しています。

施策の柱		推進事項
全領域	ネットワーク型社会教育活動の推進	◇行政、地域、企業、市民団体、学校教育との連携による効果的な事業展開 ◇学校支援体制の推進
	各団体・地域コミュニティの活性化	◇既存施設、既存制度の情報発信
子ども・家庭教育	地域、家庭の教育力の向上	◇集える子育て環境の整備 ◇学習機会の充実
	子どもたちの健やかな育成	◇自然体験学習、郷土学習の充実 ◇学力・体力の向上
社会教育事項	学習活動の支援	◇学習情報提供、相談機能の充実
	芸術の振興	◇芸術に触れる機会の提供
	歴史文化の保護継承	◇石炭博物館の有効活用 ◇文化財の啓発や調査、保護
	集える施設づくり	◇施設を中心とした学習活動の推進
体育振興事業	生涯スポーツの振興	◇愛好者の拡大と指導者の育成
	既存施設の整備	◇ニーズを踏まえた整備と活用
読書活動	図書館機能の充実	◇図書コーナーからの情報発信 ◇利用しやすい資料整理 ◇道立図書館支援事業の活用 ◇他図書館との交流
	学習支援の充実	◇家庭・子ども読書支援の推進 ◇学校との連携 ◇学習相談業務 ◇ボランティア活動のサポート

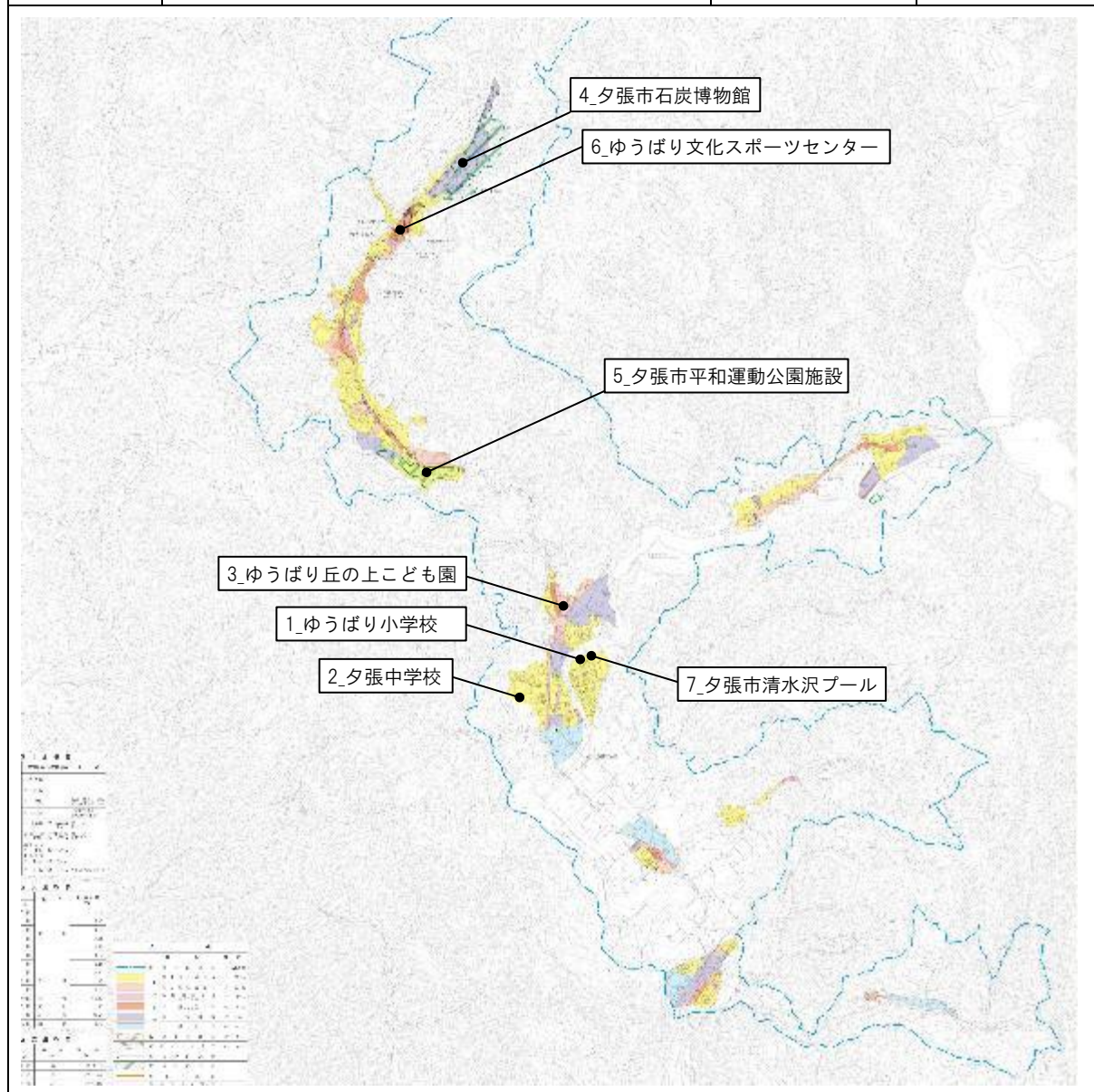
第 2 章 施設の状況

1 対象施設の概要

対象施設の建築年及び面積等は次のとおりです。

図表 対象施設一覧（令和 2 年（2020 年）4 月現在）

	対象施設	建設年度	延床面積
学校教育系 施設	1. ゆうばり小学校	S63 (1988)	4,598 ㎡
	2. 夕張中学校	S55 (1980)	6,025 ㎡
社会教育系 施設等	3. ゆうばり丘の上こども園	R2 (2020)	1,149 ㎡
	4. 夕張市石炭博物館	S54 (1979)	2,009 ㎡
	5. 夕張市平和運動公園施設	H13 (2001)	2,223 ㎡
	6. ゆうばり文化スポーツセンター	S61 (1986)	3,908 ㎡
	7. 夕張市清水沢プール	H20 (2008)	19 ㎡



2 児童生徒数および学級数

(1) 児童生徒数および学級数の状況

児童生徒数及び学級数は令和2年(2020年)4月現在で小学校187人11学級、中学校100人5学級となっています。

図表 児童・生徒数および学級数の現状(令和2年(2020年)4月現在)

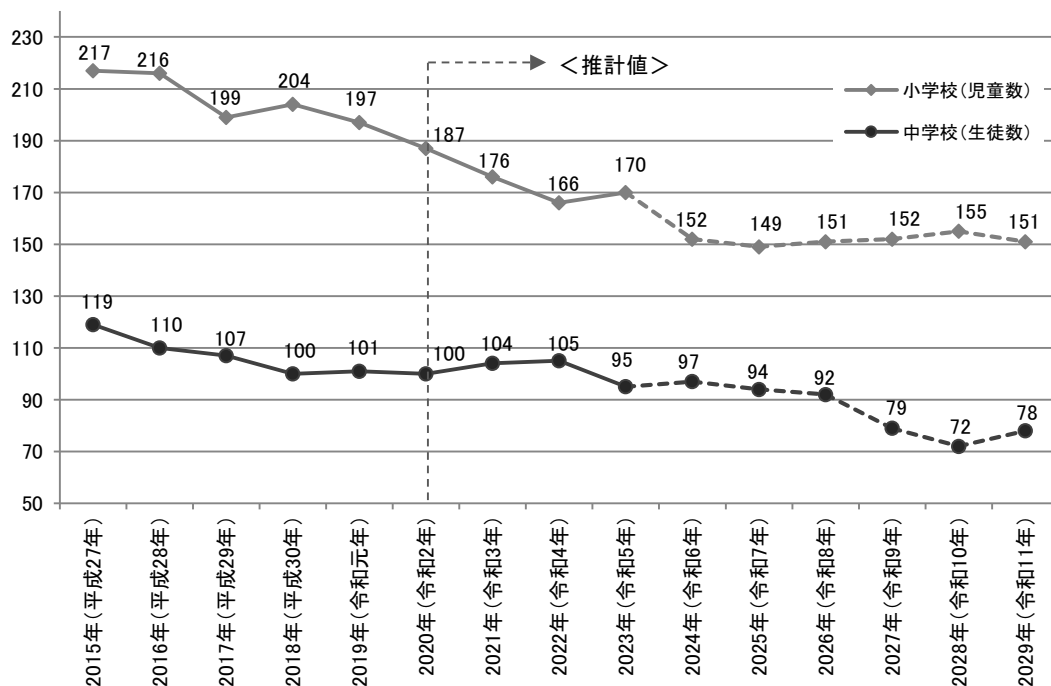
学校名等		普通学級							特別支援学級	合計
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計		
1 ゆうぱり小学校	児童数	24	30	38	26	33	36	187	-	187
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	5	11
2 夕張中学校	生徒数	36	32	32	-	-	-	100	-	100
	学級数	1	1	1	-	-	-	3	2	5
計	児童生徒数	287							-	287
	学級数	9							7	16

(2) 学校数および児童生徒数の推移と将来推計

小学校児童数の推移は、平成27年度(2015年度)217名から令和2年度(2020年度)には187人に減少し、概ね年5人程度の減少傾向で推移しています。将来推計はさらに減少傾向が継続し、令和11年度(2029年度)で151人と推計されます。

中学校生徒数の推移は、平成27年度119人から年3人程度の微減傾向で推移し、令和2年度には105人となっています。将来推計も同傾向で推移し、令和4(2022)年度以降は100人を下回ると推計されます。

図表 児童生徒数の推移と将来推計(各年4月現在)



3 施設の保有量

(1) 施設ごとの保有量の現状

学校施設等の全体保有量は、計画対象施設7施設を含めた15棟で、延床面積^{注1}は20,759 m²となります。また、構造、建設年度等は次のとおりです。

図表 建物別施設の状況（令和2年（2020年）9月現在）

種別	施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (m ²)		建築 年月	耐震診断・補強				大規模改修等	
							和暦	基準	診断 年度	IS値	補強 年度		
学校教育施設	1 ゆうばり小学校	① 校舎	RC	3	3,506	3,506	S63	新					H22
		② 体育館	RC	1	32	1,092	S63	新					H22
			S	1	1,060		S63	新					H22
	2 夕張中学校	③ 校舎	RC	3	4,678	4,678	S55	旧	H20	0.73	H21	H21	
		④ 体育館	RC	1	27	1,347	S55	旧					H21
			S	2	1,320		S55	旧	H20	1.01	H21	H21	
社会教育施設等	3 ゆうばり丘の上こども園	⑤ 園舎	RC	1	1,149	1,149	R2	新					
	4 夕張市石炭博物館	⑥ 本館	RC	2	2,009	2,648	S54	旧	H27	0.69	-		H28-29
		⑦ 地下展示場	-	B1	639		S54	旧	H27	0.69	-		
		⑧ (模擬坑道)	-	B1	(356)		S54	旧					
	5 夕張市平和運動公園施設	⑨ センタースタンド	RC	2	2,223	2,261	H13	新					
		⑩ 屋外トイレ	W	1	38		H10	新					
	6 ゆうばり文化スポーツセンター	⑪ スポーツセンター	RC	2	3,908	4,059	S61	新					
		⑫ テニスコートセンター施設	W	1	151		S63	新					
		⑬ (屋外相撲場)	S	1	-		S63	新					
	7 夕張市清水沢プール	⑭ 脱衣所	S	1	19	19	H1	新					
⑮ (プール)		S	1	-	H1		新						
計		15棟		20,759 m ²									

※IS値は0.6以上で「倒壊または崩壊の危険性が低い」と評価できます。（「建築物の耐震改修の促進に関する法律（耐震改修促進法）」の告示（平成18年度国土交通省告示 第184号と185号）により）よって夕張市石炭博物館は現状で耐震性能があると評価できます。

※表中の（ ）施設は地下坑道や膜構造建築物であり計画対象施設として位置づけますが、次項以降の施設保有量や劣化状況評価の対象からは除外します。

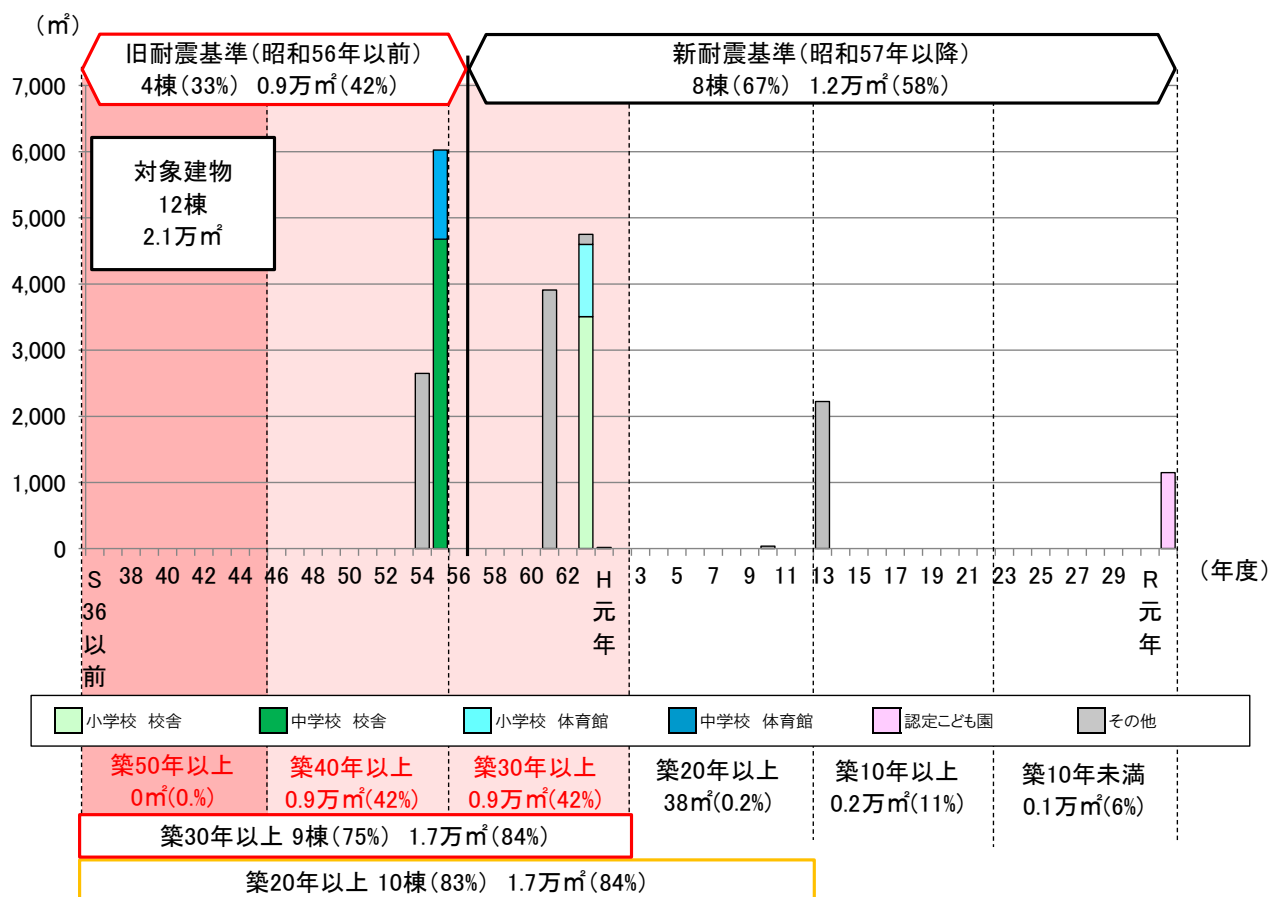
注1 ⑧、⑬、⑮は地下坑道や膜構造建築物であるため、延床面積には含まれません。

(2) 建築年別での施設保有量の状況

施設保有量の対象建物は学校施設等の全体保有量のうち、地下坑道1施設、膜構造建築物2施設の計3施設を除く12棟で延床面積は20,759㎡(約2.1万㎡)となります。築30年以上の施設は10棟あり面積は83%を占めます。

昭和56年(1981年)6月以前の旧耐震基準で建てられた施設は4棟、面積は0.9万㎡で42%を占めています。

図表 建築年別整備状況(令和2年(2020年)9月現在)



4 施設関連経費の推移

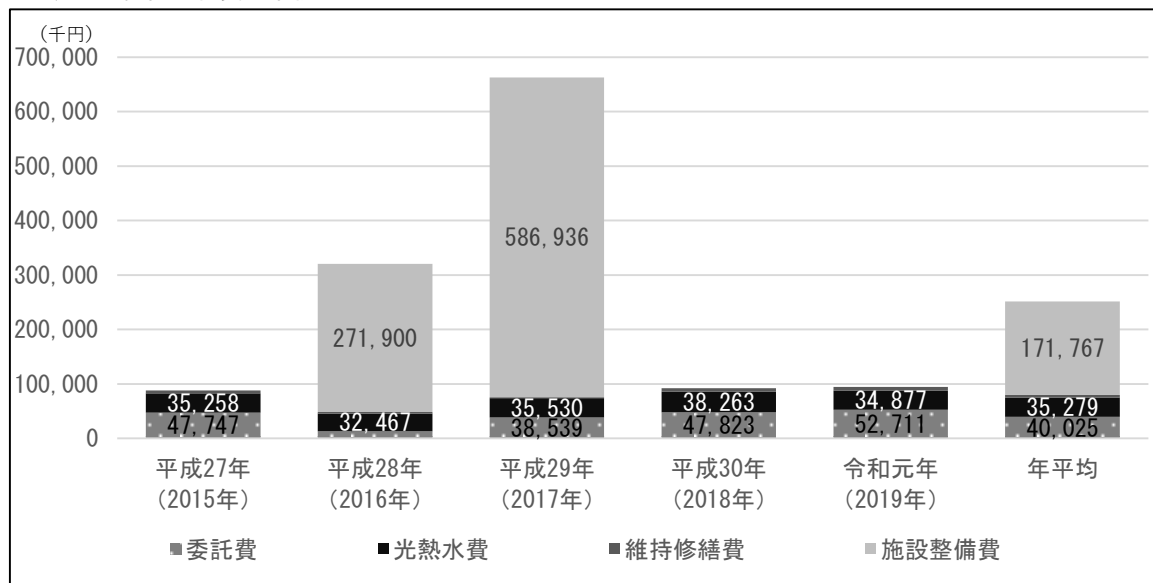
(1) 施設関連経費の状況

過去5年間の施設関連経費の内訳は次のとおりです。維持修繕費の平均は概ね4,700千円/年、光熱水費は35,000千円/年、委託費は40,000千円/年となっています。

また、平成28年(2016年)から平成29年(2017年)の施設整備費は、石炭博物館本館及び模擬坑道の大規模改修によるものです。

図表 施設関連経費の推移

(単位：千円)



	種別	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	年平均
施設整備費	小学校	0	0	0	0	0	0
	中学校	0	0	0	0	0	0
	社会施設 [※]	0	271,900	586,936	0	0	171,767
	計	0	271,900	586,936	0	0	171,767
維持修繕費	小学校	332	348	240	575	376	374
	中学校	2,432	576	577	3,136	863	1,517
	社会施設 [※]	2,471	2,195	1,101	2,471	5,818	2,811
	計	5,235	3,119	1,918	6,182	7,057	4,702
光熱水費	小学校	6,069	7,025	8,105	8,099	8,087	7,477
	中学校	11,756	11,994	12,656	12,731	12,362	12,300
	社会施設 [※]	17,433	13,448	14,769	17,433	14,428	15,502
	計	35,258	32,467	35,530	38,263	34,877	35,279
委託費	小学校	2,286	2,087	2,933	2,347	2,246	2,380
	中学校	2,289	3,321	2,366	2,304	3,499	2,756
	社会施設 [※]	43,172	7,896	33,240	43,172	46,966	34,889
	計	47,747	13,304	38,539	47,823	52,711	40,025
合計		88,240	320,790	662,923	92,268	94,645	251,773

※計画対象施設のうち「こども園」は供用開始していないため除く。(以下、同じ)

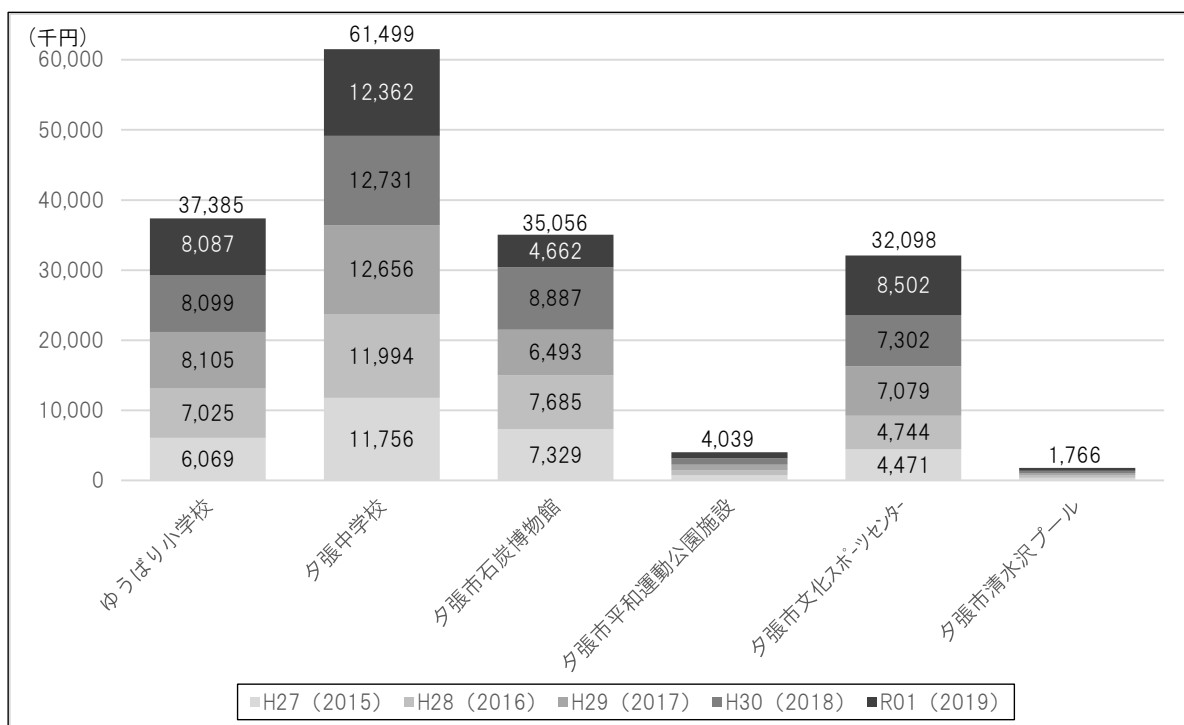
(2) 施設ごとの光熱水費の状況

過去5年間の光熱水費の内訳は次のとおりです。

最も経費がかかっている施設は夕張中学校で計61,146千円、次いでゆうばり小学校が37,385千円となっています。

図表 施設別での光熱水費の状況

(単位：千円)



施設名	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	年平均
ゆうばり小学校	6,069	7,025	8,105	8,099	8,087	7,477
夕張中学校	11,756	11,994	12,656	12,731	12,362	12,300
夕張市石炭博物館	7,329	7,685	6,493	8,887	4,662	7,011
夕張市平和運動公園施設	715	688	851	911	874	808
ゆうばり文化スポーツセンター	4,471	4,744	7,079	7,302	8,502	6,420
夕張市清水沢プール	366	334	345	332	389	353
合計	30,706	32,470	35,529	38,262	34,876	34,369

5 学校施設等の劣化状況

(1) 学校施設等の劣化状況の評価

学校施設等の構造躯体以外の劣化状況の評価します。評価方法は「屋上・屋根、外壁」については目視により、また「内部仕上げ、電気・機械設備」については経年劣化等により、下の表のA～D段階で評価します。

①目視による評価
(屋上・屋根、外壁)

評価	基準(解説書)
A	概ね良好
B	部分的に劣化 (安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化 (安全上、機能上、不具合発生の兆し)
D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

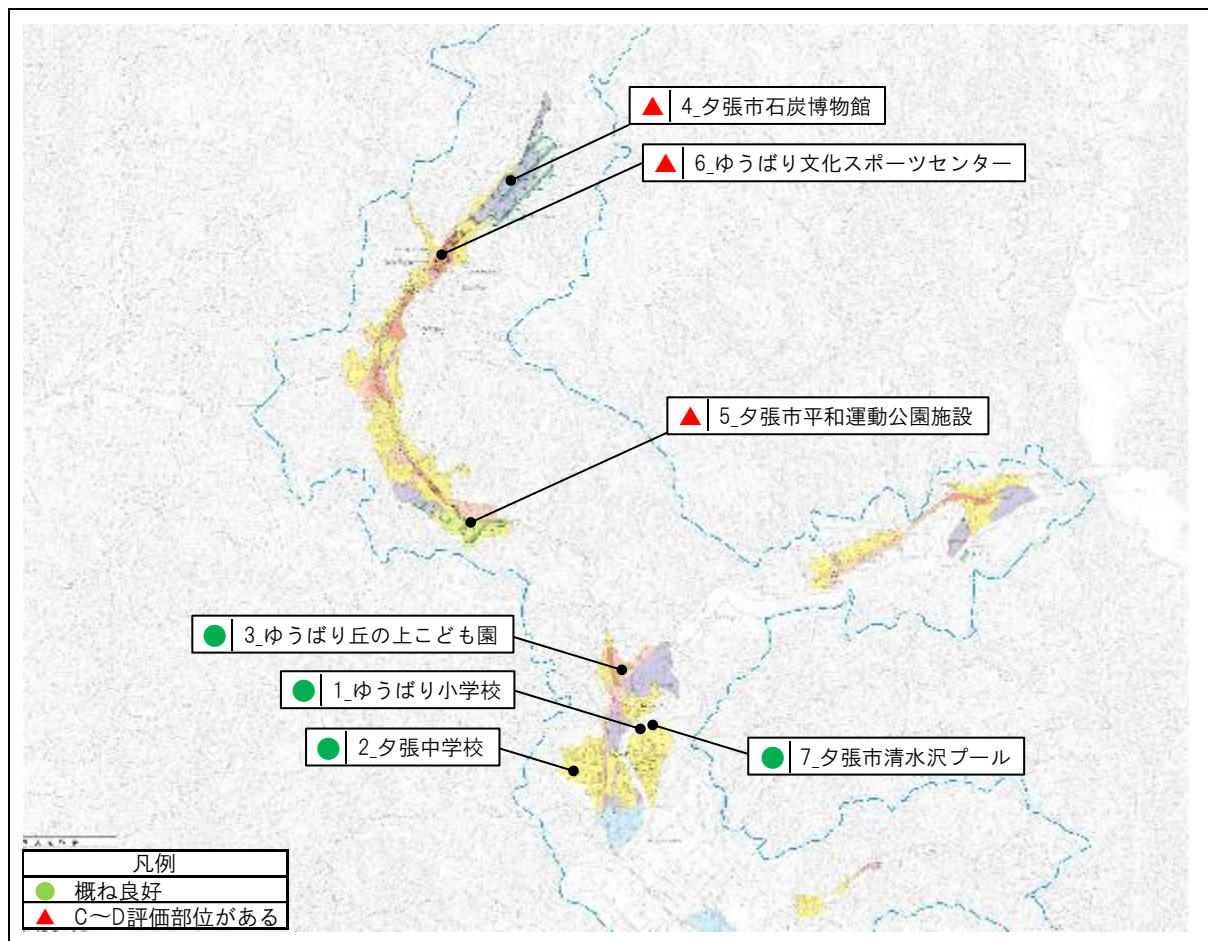
②経年劣化による評価
(内部仕上げ、電気・機械設備)

評価	基準(解説書)
A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
D	経年劣化に関わらず著しい劣化事象がある場合

(2) 学校施設等の劣化状況調査

(1) の評価結果の概要は次のとおりです。

図表 劣化状況調査概要



① ゆうばり小学校

－劣化状況評価－



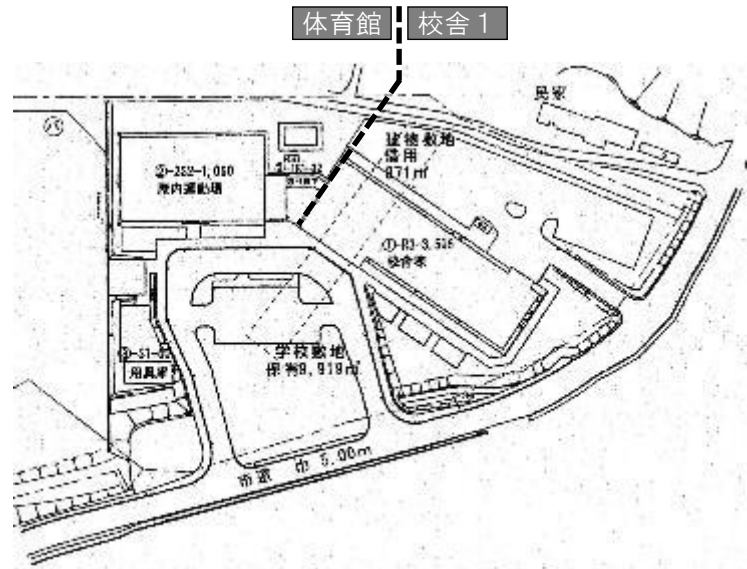
建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦	西暦	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎	RC	3	3,506	S63	07	B	B	B	B	B
体育館	RC/S	1	1,092	S63	10	B	B	B	B	B

<改修等履歴>

・ H22 大規模改修 (老朽)

<その他留意事項等>

・ 設備改修は不具合箇所のみを実施、よって未改修設備の内、浄化槽、給排水設備、暖房等は老朽化が進んでいる。また、LED化等も必要



校舎 (屋根・屋上)

1:校舎屋上の状況

防水面は部分的な経年劣化が見られるものの概ね良好な状況



2:校舎エントランス屋上防水の状況

防水面は概ね良好だが、堆雪時に校舎側パラペット周辺より職員室(事務室)に雪解け水が浸入



校舎 (外壁)

1:外壁の状況

亀裂や塗装剥離等は見られず、概ね良好な状況



2:外壁の状況

換気フード周辺の亀裂補修後、大規模改修時に補修されている



校舎			
<p>1: エントランスの状況</p> <p>バリアフリー対応済みのエントランス</p>		<p>2: トイレの状況</p> <p>改修済のトイレ、便器交換の他、ドライ化済み</p>	
校舎			
<p>3: 校舎内廊下の状況</p> <p>壁面、床、天井ともに概ね良好な状況</p>		<p>4: 校舎内の雨漏り箇所</p> <p>職員室（事務室）の天井雨漏り箇所</p>	
校舎			
<p>5: 校舎サッシ周りの状況</p> <p>サッシ周りのコーキングの状況。硬化等無く良好な状況</p>		<p>6: 電気設備の状況</p> <p>電気室の状況（屋内）、キュービクルはH22年に改修済みであり良好な状況</p>	
体育館			
<p>7: 体育館外壁の状況</p> <p>ブロック及び板金面に劣化等は見られず良好な状況</p>		<p>8: 体育館内部の状況</p> <p>床面の歪や天井雨漏り等無く良好な状況</p>	

② 夕張中学校

－劣化状況評価－



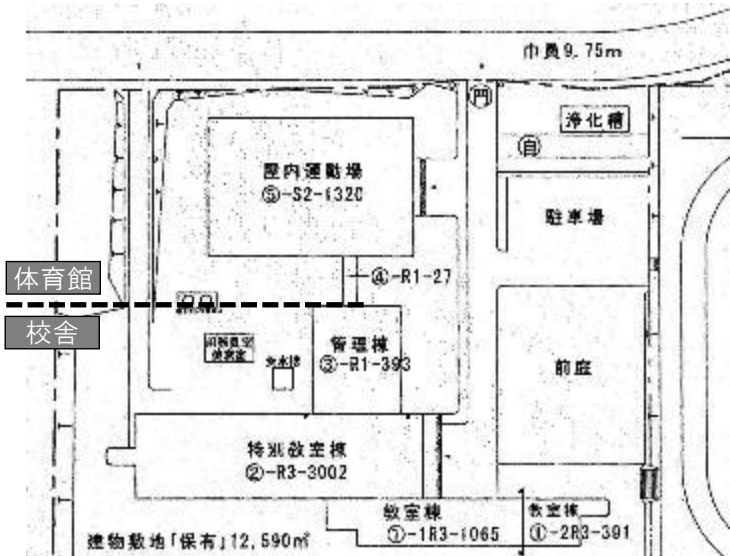
<改修等履歴>

- ・H21 耐震補強（校舎及び屋体）
- ・H21 大規模改修（老朽）

<その他留意事項等>

- ・設備改修は不具合箇所のみを実施、よって未改修設備の内、浄化槽、給排水設備、暖房等は老朽化が進んでいる。また、LED化等も必要

建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦	西暦	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎	RC	3	4,678	S55	10	B	B	B	B	B
体育館	RC/S	2	1,347	S55	11	B	B	B	B	B



校舎（屋根・屋上）

1: 屋上防水の状況

防水面は部分的な経年劣化が見られるものの概ね良好な状況



2: 体育館屋根状況

体育館屋根は破損や錆等は見られず、概ね良好な状況



校舎（外壁）

3: 外壁の状況

校舎1、2の外壁の状況、亀裂や大きな塗装剥離等は無く、概ね良好な状況



4: 外壁の状況

校舎2、3の外壁の状況、平成21年の大規模改修時に壁面補修済みであり、概ね良好な状況



校舎（内部）			
<p>1: エントランスの状況</p> <p>エントランスはバリアフリー改修済み</p>		<p>2: トイレの状況</p> <p>改修済のトイレ、便器交換の他、ドライ化済み</p>	
校舎（サッシ）			
<p>3: サッシの破損</p> <p>校舎2（木工室）の窓の破損</p>		<p>4: 校舎内部の状況</p> <p>1F 階段室の状況、一部床面の隆起が見られる</p>	
校舎			
<p>5: サッシの状況</p> <p>改修済のサッシ、内窓プラスチックサッシ化</p>		<p>6: 電気室の状況</p> <p>電気室の状況（屋内）、キュービクルはH21年に改修済みであり良好な状況</p>	
体育館			
<p>7: 外壁の状況</p> <p>部分的な経年劣化は見られるものの、壁面に大きな破損等は無く概ね良好な状況</p>		<p>8: 体育館内部の状況</p> <p>床面の歪や天井雨漏り等無く良好な状況</p>	

③ ゆうばり丘の上こども園

－劣化状況評価－



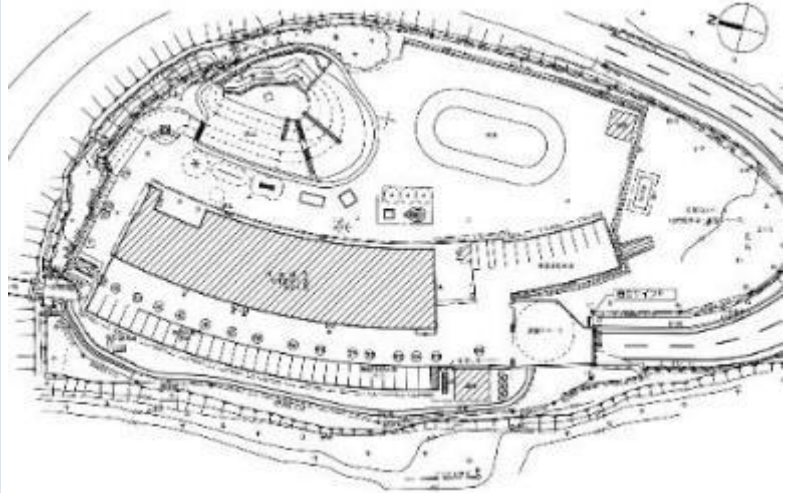
<改修等履歴>

・R2 建設

<その他留意事項等>

・無し

建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
園舎	W	1	1,149	R2		A	A	A	A	A



園舎（屋根・屋上）

1: 正面職員玄関

良好な状況



2: 園庭からの施設の状況

良好な状況



園舎（外壁）

3: 園庭側遊戯室壁面の状況

良好な状況



4: 遊戯室壁面の状況

良好な状況



園舎			
<p>1:エントランス の状況</p> <p>良好な状況</p>		<p>2:エントランス ホールの状況</p> <p>良好な状況</p>	
校舎			
<p>3:廊下の状況</p> <p>良好な状況</p>		<p>4:プレイルーム の状況</p> <p>良好な状況</p>	
園舎			
<p>5:遊戯室(ステージ) の状況</p> <p>良好な状況</p>		<p>6:遊戯室(ボルダリング 壁)の状況</p> <p>良好な状況</p>	
園舎			
<p>7:園児便所の 状況</p> <p>良好な状況</p>		<p>8:調理室の状況</p> <p>良好な状況</p>	

④ 夕張市石炭博物館

－劣化状況評価－



<改修等履歴>

- ・ H29 大規模改修

<その他留意事項、等>

- ・ 模擬坑道は H31 年 4 月の火災に伴う復旧工事が必要。
- ・ 石炭博物館の電気設備に低濃度 PCB が含まれていることから、法で定める処理期限（令和 8 年度末）までに更新が必要

建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦	西暦	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
本館	RC	2	2,009	S54		A	B	A	A	A
地下展示場	-	B1	639	S54		-	B	B	D	B



本館（屋根・屋上）

1: 屋上防水の状況

改修後の屋上劣化等は無く良好な状況



2: 屋上防水の状況

劣化等は無く良好な状況



本館（外壁）

3: 外壁の状況

外壁コーキングの状況、硬化等は無く良好な状況



4: 外壁の状況

立杭櫓外壁板金の状況、劣化等は無く良好な状況



本館（外部）			
<p>1:外壁の状況</p> <p>施設後背面の壁面の状況、改修時に大きな亀裂等の補修は行われている</p>		<p>2:立杭槽柱脚コンクリートの一部破損</p> <p>柱脚部基礎コンクリートの状況、表面モルタルの亀裂剥離が見られる</p>	
本館（外部）			
<p>3:エントランスの状況</p> <p>改修後に設置されたスロープ、劣化等は無く良好な状況</p>		<p>4:サッシ廻りの状況</p> <p>サッシ廻りのコーキングの状況、硬化等は無く良好な状況</p>	
本館（内部）			
<p>5:施設内部の状況</p> <p>施設内部、全体的に内装修繕が行われている</p>		<p>6:改修後のトイレ</p> <p>改修後に設置された多目的トイレの状況</p>	
地下展示場			
<p>7:地下展示空間の状況</p> <p>壁面、展示物等の状況</p>		<p>8:地下展示(ドラムカッター)</p> <p>展示物の状況</p>	

⑤ 夕張市平和運動公園施設

- 劣化状況評価 -										
建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	
センタースタンド*	RC	2	2,223	H13	-	B	B	C	B	
屋外トイレ	W	1	38	H10	B	B	B	B	B	




<改修等履歴>
・無し

<その他留意事項、等>
・野球場スコアボードが電気設備の老朽化に伴い、表示されないケースがあることから、今後改修が必要



センタースタンド		
<p>1:スタンドの状況</p> <p>客席の状況、大きな破損等は無く概ね良好な状況</p>		<p>2:スタンド階段腰壁の劣化</p> <p>コンクリートの腰壁の状況、部分的な劣化が見られる</p> 
センタースタンド		
<p>3:外壁の亀裂</p> <p>外壁の亀裂、複数箇所で大規模な亀裂が見られる</p>		<p>4:外壁の亀裂</p> <p>外壁の亀裂、開口部周辺で放射状の亀裂が見られる</p> 

センタースタンド		
<p>1: スタンド廊下の状況</p> <p>スタンド廊下の状況、破損等は無く概ね良好な状況</p>		<p>2: 打ち継ぎ目地コーキングの硬化</p> <p>コンクリート壁面目地のコーキングの状況、硬化による亀裂が見られる</p> 
センタースタンド		
<p>3: 廊下天井の状況</p> <p>スタンド廊下天井の状況、風雨の吹込み等により、軒天内からの染み出し跡</p>		<p>4: シャッターフェンスの状況</p> <p>シャッターの状況、部分的に錆等の腐食が見られる</p> 
センタースタンド		
<p>5: トイレの状況</p> <p>スタンド内トイレの状況、湿式床の部分的劣化が見られる</p>		<p>6: トイレ床タイルの亀裂</p> <p>トイレ床タイルの亀裂</p> 
その他施設等		
<p>7: スコアボードの状況</p> <p>電気設備の老朽化により使用に支障をきたしている</p>		<p>8: 屋外トイレの状況</p> <p>屋外トイレの状況、大きな破損等は無く概ね良好な状況</p> 

⑥ ゆうばり文化スポーツセンター

－劣化状況評価－



<改修等履歴>

- ・H28 暖房設備改修

<その他留意事項、等>

- ・スポーツセンター電気設備の老朽化に伴い、機器の更新が必要。その際に照明設備の更新（LED化）も進める

建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月 和暦	劣化状況				
					屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
スポーツセンター	RC	2	2,175	S61	C	C	B	D	B
テニスコートセンター施設	W	1	151	S63	C	C	B	B	B



スポーツセンター（屋上・外壁）

1:屋上防水の状況

屋上防水の状況、防水面の部分歴な劣化が見られる



2:外壁の状況

外壁タイルの状況、大きな破損等は無く、概ね良好な状況



スポーツセンター（外壁）

3:外壁の状況

大きな破損等は無く、概ね良好な状況



4:外壁タイルの亀裂

外壁タイルの部分的な亀裂箇所の状況



スポーツセンター（外部）			
<p>1: エントランス 周辺の状況</p> <p>エントランス 壁面の状況、 大きな破損等 は無く概ね良 好な状況</p>		<p>2: エントランス サッシの状況</p> <p>エントランス サッシの状 況、経年劣化 と汚れが見ら れる</p>	
スポーツセンター（外部）			
<p>3: サッシ廻り の状況</p> <p>サッシ周辺の 状況、破損等 はなく概ね良 好な状況</p>		<p>4: 軒下（給排 気口）の状況</p> <p>軒下の排気口 の状況、雨の 吹込みや冬期 の凍結等によ る劣化が見ら れる</p>	
スポーツセンター（内部）			
<p>5: エントランス ホールの状況</p> <p>施設内部の状 況、概ね良好 な状況</p>		<p>6: サブアリー ナの状況</p> <p>アリーナ内部 の状況、床の 凹凸等無く、 概ね良好な状 況</p>	
スポーツセンター（内部）			
<p>7: トレーニング 室の状況</p> <p>トレーニング 室室内、概ね 良好な状況</p>		<p>8: トレーニング 室天井の状況</p> <p>天井に雨漏り 等の修繕跡が 見られる</p>	

テニスコートセンター施設

1:センター施設の状況

道道沿いに立地するセンター施設、木製の縁側等は既に撤去されている



2:センター施設の状況

センター施設北側の状況、縁側は既に全面撤去されている



テニスコートセンター施設

3:屋根の状況

施設屋根は劣化による錆が部分的に見られる



4:外壁の状況

施設木壁の状況、大きな破損は無いが全面的に経年劣化が見られる



テニスコートセンター施設

5:軒天の状況

施設軒天の状況、全面的に経年劣化している他、一部破損も見られる



6:軒天の状況

施設軒天の状況、部分的な破損の補修跡が見られる



テニスコートセンター施設

7:テラス撤去箇所の状況

施設縁側の状況、階段及び縁側は既に全面撤去されている



8:テラス撤去箇所の状況

施設縁側跡の状況



テニスコートセンター施設			
<p>1:外壁の状況</p> <p>施設壁面の状況、休憩ベンチとして使われていた箇所、経年劣化が見られる</p>		<p>2:外壁の状況</p> <p>施設縁側跡の状況</p>	
テニスコートセンター施設			
<p>3:テニスコートの状況</p> <p>テニスコートの状況</p>		<p>4:フェンスの状況</p> <p>テニスコート外構壁の状況、コンクリートの部分的な劣化が見られる</p>	
はまなす国体記念相撲場			
<p>5:相撲場の状況</p> <p>屋外相撲場の状況、現在は使用していない</p>		<p>6:屋根(骨組み)の状況</p> <p>屋根の状況、膜は撤去されている</p>	
はまなす国体記念相撲場			
<p>7:屋根(支柱)の状況</p> <p>屋根支柱の状況、経年劣化が見られる</p>		<p>8:土俵の状況</p> <p>土俵の状況、現在は使用していない</p>	

⑦ 夕張市清水沢プール

－劣化状況評価－



<改修等履歴>

・無し

<その他留意事項等>

・プール躯体の内部壁劣化に伴う塗装補修実施予定（R3年度）

建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月 和暦	劣化状況				
					屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
脱衣所	S	1	19	H1	B	B	B	B	B



脱衣所

1: 脱衣所の状況

プール附属施設、施設は脱衣室、トイレ、機械室により構成



2: 脱衣所壁面の状況

プール附属施設、壁面及び軒下の状況、破損等は無く概ね良好な状況



脱衣所（外壁）

1: 外壁の状況

コンクリートブロック壁の塗装面は目地に沿って亀裂が見られる



2: 機械室(ろ過装置)の状況

ろ過機械の状況、シーズン毎に整備点検が行われ現状では稼働に支障は見られない



プール（外壁）			
<p>1:プールの状況</p> <p>プール等の状況、壁面等に破損等は無く概ね良好な状況</p>		<p>2:プール壁面の状況</p> <p>プール建具の状況、破損等は無く概ね良好な状況</p>	
プール（外壁 2）			
<p>3:プール壁面の状況</p> <p>妻側壁面の状況、塗装剥離等は見られる概ね良好な状況</p>		<p>4:プール壁面の塗装剥離</p> <p>平側壁面の状況、ブロック塗装面の亀裂、剥離が複数箇所で見られる</p>	
プール（鉄骨等）			
<p>1:プール（鉄骨梁）の状況</p> <p>支柱の状況、破損等は無く概ね良好な状況</p>		<p>2:プール軒の状況</p> <p>支柱とRC軒部分との接合部、亀裂からの水分染み出しによるエフロレンスが見られる</p>	
プール（屋内）			
<p>1:プール室の状況</p> <p>プール内部の状況、水槽等に破損等は無く概ね良好な状況</p>		<p>2:プール内壁の塗装剥離</p> <p>プール内部の状況、経年劣化による塗装剥離が複数箇所で見られる</p>	

(4) 構造躯体の健全性及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

施設の劣化状況は、建物全般的に劣化が進行しており、屋根・屋上、外壁等の部位でC~D判定となる施設もみられます。

図表 学校施設等の劣化状況評価

建物基本情報									構造躯体の健全性					劣化状況評価						
No	施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)	
						西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/㎡)							試算上の区分
1	ゆうばり小学校	校舎	RC	3	3,506	1988	S63	32	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
2	ゆうばり小学校	体育館	S	1	1,092	1988	S63	32	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
3	夕張中学校	校舎	RC	3	4,678	1980	S55	40	旧	済	済	H20	41.8	長寿命	B	B	B	B	B	75
4	夕張中学校	体育館	S	2	1,347	1980	S55	40	旧	済	済	H20	39.1	長寿命	B	B	B	B	B	75
5	ゆうばり丘の上こども園	園舎	W	1	1,149	2020	R2	0	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
6	夕張市石炭博物館	本館	RC	2	2,009	1979	S54	41	旧	-	-			長寿命	A	B	A	A	A	93
7	夕張市石炭博物館	地下展示場	-	B1	639	1979	S54	41	旧	-	-			長寿命	-	B	B	D	B	65
8	夕張市平和運動公園施設	センタースタンド	RC	2	2,223	2001	H13	19	新	-	-			長寿命	-	B	B	C	B	70
9	夕張市平和運動公園施設	屋外トイレ	W	1	38	2001	H13	19	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
10	ゆうばり文化スポーツセンター	スポーツセンター	RC	2	3,908	1986	S61	34	新	-	-			長寿命	C	C	B	D	B	53
11	ゆうばり文化スポーツセンター	テニスコートセンター施設	W	1	151	1986	S61	34	新	-	-			長寿命	C	C	B	B	B	62
12	夕張市清水沢プール	脱衣所	S	1	216	1989	H元	31	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75

※築年数が30年以上経過している施設を薄赤色で表示しています。

※夕張中学校・校舎1-3の圧縮強度は平均値としています。(※採取サンプルは全て設計基準強度21N/㎡以上)

第3章 学校施設等整備の基本的な方針

1 学校施設等を取り巻く状況の整理

学校施設等を取巻く状況は、次のとおりです。

◆更なる人口減少と少子高齢化の進展による子どもの数の減少

- 人口は昭和35年（1960年）の116,908人をピークに減少に転じています。
- 令和2年（2020年）8月末現在の住民基本台帳の人口は7,605人、世帯数は4,537世帯であり、平成27年（2015年）に対し、人口は14%の減少、世帯数は横ばいとなっています。
- 小学校の児童生徒数は近年減少傾向が続き、令和2年（2020年）4月現在で187人11学級となっています。
- 中学校の生徒数も同様に近年減少傾向が続き、令和2年（2020年）4月現在で100人5学級となっています。

◆学校教育系施設等の統廃合による管理施設の集約化

- 炭鉱の街として繁栄した本市では、昭和34年（1959年）当時には小学校21校、中学校8校が整備されましたが、相次ぐ炭鉱の閉山とそれに伴う人口減少により、現在では小学校1校、中学校1校、令和3年度開園予定である認定こども園1施設に集約されています。
- 本市教育委員会で管理する学校及び社会教育施設は、各地区に整備された各機能の統合等により令和2年度以降の継続管理を予定する施設は7施設に集約しています。

◆築30年を超える施設が床面積割合で全体の5割以上

- 令和2年度（2020年度）現在、所有する学校施設等は15棟あり、延床面積は約2.1万㎡となっています。
- 築年数別では、築30年以上経過した施設が全体の約83%（1.7万㎡）を占めています。
- 昭和56年（1981年）6月以前の旧耐震基準で建てられた施設のうち、耐震診断の結果、耐震補強が必要と診断された中学校については、耐震改修等が行われています。
- また、石炭博物館など老朽化が見られる施設については、計画的に大規模改修を進めていますが、その他施設については今後改修周期を迎えることから、長寿命化や予防改修等の対応を計画的に進める必要があります。

2 施設整備の基本的な方針

(1) 計画の基本的な方針

本計画における学校施設等整備の基本的な方針は、総合管理計画における公共施設等マネジメント基本方針を踏まえ、従来型の老朽化による建替えから、長寿命化による施設の維持を図り、施設整備のコスト低減及び平準化を進めていくことを基本とします。

今後の学校施設等管理において、築40年を目安に躯体の健全性の調査を行い、長寿命化改修工事を実施し、施設の活用については80年を目標とします。

また、改修又は建替え後20年を目安として、劣化や損傷が軽微な早期段階に適切な予防保全対策を実施し、突発的な不具合を未然に防ぐことで、建物の長寿命化を行うものとします。

なお、詳細調査の結果から長寿命化が困難である場合や、トータルコストの試算により、統廃合や複合化等にコスト軽減の利があると判断される場合は建替えを検討していきます。

<夕張市まちづくりマスタープラン・まちの将来像> 安心して幸せに暮らすコンパクトシティゆうばり	
<夕張市公共施設等総合管理計画>	
夕張市公共施設等マネジメント基本方針	◆超高齢化、人口減少社会を直視し、地域コミュニティの存続を図りながら既存ストックを活用した、都市機能の再編、集約化を図る。また、都市経営コストを軽減するためコンパクトなまちづくりを推進する。
<公共施設等の管理>	
長期的視点に立った老朽化対策の推進	◇長期的な維持管理・更新等のコストを踏まえつつ、安全性や経済性、重要性の観点から必要性が認められる優良な施設を選定し、集約化や長寿命化を積極的に図る。
適切な維持管理、修繕の実施	◇把握可能な情報に基づき、中長期的なコストを明示し、必要な施設の現状と課題に照らし、必要性が高いと判断される事項について取組を具体化する。
トータルコストの縮減、平準化	◇今後、全ての公共施設(建物)の総量を維持することは困難であることから、保有する公共施設を大幅に削減することが必要となる。その削減率については、今後の人口推移を目安とし、全国平均である一人当たり床面積3.52㎡を基準とし、将来的なトータルコストの縮減、平準化を目指す。 ◇夕張市43.28㎡/人 → 3.52㎡/人 (※現施設数を1/12に削減)

(2) 学校施設の配置計画の方針

本市の学校施設は、現在、小学校1校、中学校1校を管理しており、大規模改修や耐震改修等を実施し適正な維持管理に努めてきましたが、小学校は築30年、中学校は築40年を経過し老朽化が顕在化してきました。

また、小学校児童数の推移は、平成27年度(2015年度)217名から令和2年度(2020年度)には187人に減少し、令和11年度(2029年度)で151人と推計されます。また、中学校生徒数も同様に減少しており、平成27年度(2015年度)119人から令和2年度(2020年度)には105人となり、令和4年度(2022年度)以降は100人を下回ると推計されます。

これらのことを踏まえ、主に本計画期間における学校施設の配置については、児童生徒数は減少していますが、学校施設の老朽化が顕著化しているため、適正な維持管理に努めることとし、教育施設としての役割や災害等での避難所及び地域コミュニティの場として必要な施設であることから、長期的な維持管理コスト等を勘案の上、修繕対応や予防改修、長寿命化改修等、適正な維持管理に努め、現行の配置を維持します。

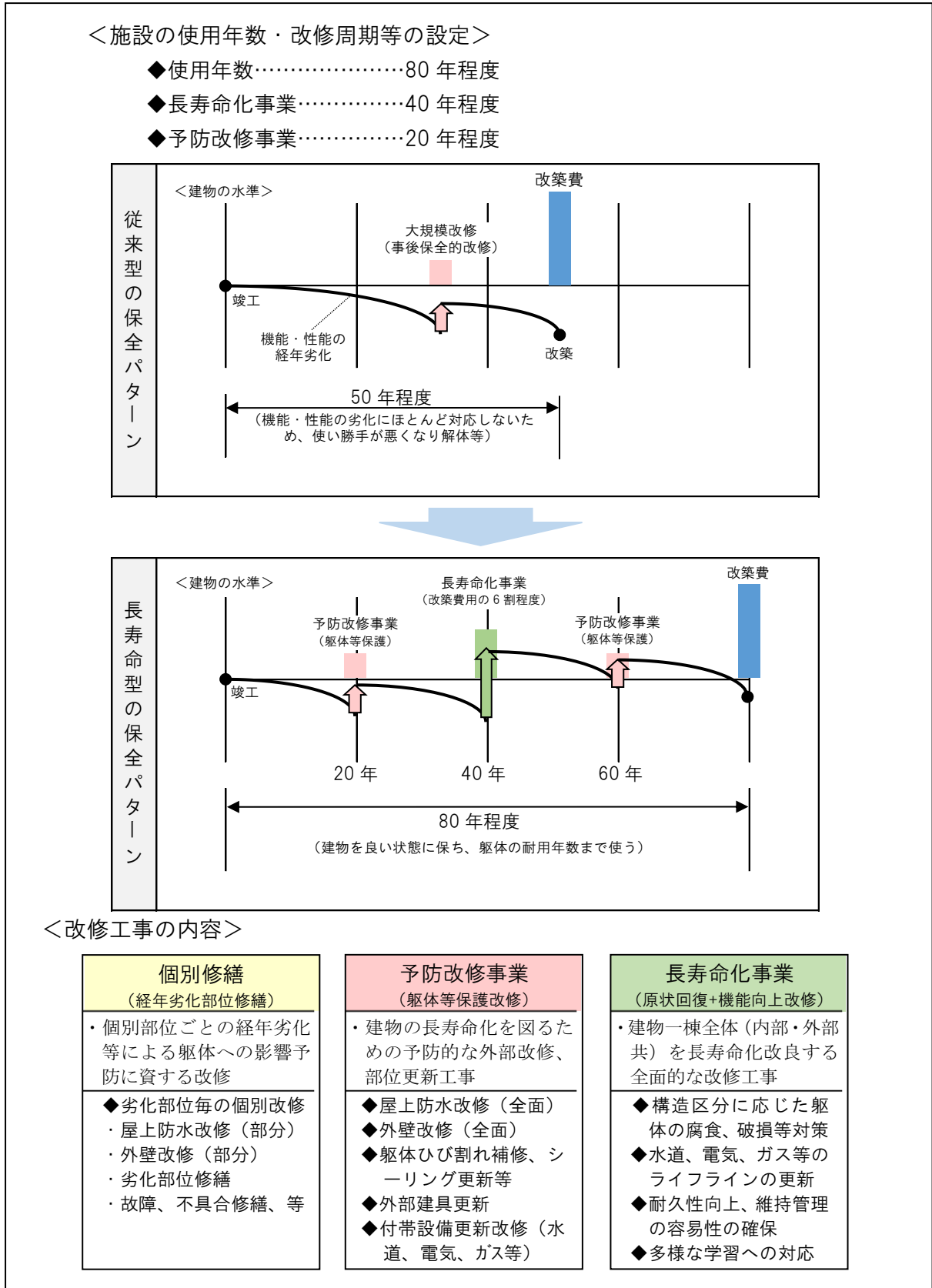
図表 学校配置計画の方向性



3 改修等の基本的な方針

(1) 長寿命化の方針

基本方針の実現に向け従来の改築を基本とする施設の更新から、長寿命化等により使用年数の長期化を図ります。原則として予防改修事業は20年、長寿命化事業は40年と設定します。



(2) 維持管理コストの算定条件

今後の維持・更新コスト（長寿命化型）は、長寿命化のイメージに基づくものであり、建物情報一覧表の試算上の区分（長寿命、改築）により更新周期を設定するとともに、躯体以外の劣化状況（A, B, C, D 評価）を直近の修繕費に反映して算出します。

① コスト試算の考え方

◆築年数に応じた時期に、現状と同じ延べ床面積で改築・改修を行う
◆改修、長寿命化改修は2年に工事費を均等配分、大規模改造は単年度で計上
◆改築及び長寿命化改修の実施年数より古い建物は、今後10年以内にそれらを実施するものとし、当該コストの10分の1の金額を10年間計上
◆長寿命化改修の実施が可能かどうかを建物毎に判定し、改修周期を設定
① 長寿命化可能な建物（試算上の区分が「長寿命」の建物）は、築40年に長寿命化改修、築20年、築60年に予防改修、築80年に改築すると設定
② 長寿命化可能な建物で、基準年時点で築40年を超えている建物は、今後10年以内に長寿命化改修を実施すると設定
③ 長寿命化改修が実施できない建物（試算上の区分が「要調査」「改築」または未記入の建物）は長寿命化改修を実施せずに改築（改築までは20年周期で大規模改造を実施）すると設定
◆今後5年以内にD評価の部位の修繕を、今後10年以内にC評価の部位の修繕を実施すると設定。ただし、改築、長寿命化改修、予防改修を今後10年以内に実施する場合を除く
◆今後10年間に長寿命化改修を実施する建物は、長寿命化改修費からA評価の部位修繕相当額を差し引く

② 基準年度

2020年	試算期間：基準年度の翌年度から40年間
-------	---------------------

③ 維持更新コストの単価設定（円/㎡）

	学校(こども園)		体育館		社会教育系施設等		その他施設等	
改築	100%	330,000	100%	330,000	100%	400,000	100%	280,000
長寿命化改修	60%	200,000	60%	200,000	60%	240,000	60%	170,000
予防改修	25%	82,500	25%	82,500	25%	100,000	25%	70,000

※設定単価は「公共施設及びインフラ資産の将来の更新費用の試算（総務省）」を引用。なお、「その他施設等」は前記引用資料における「住宅施設」単価を引用。

※改修単価算定比率は「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）P37」を引用。

④ コスト試算条件

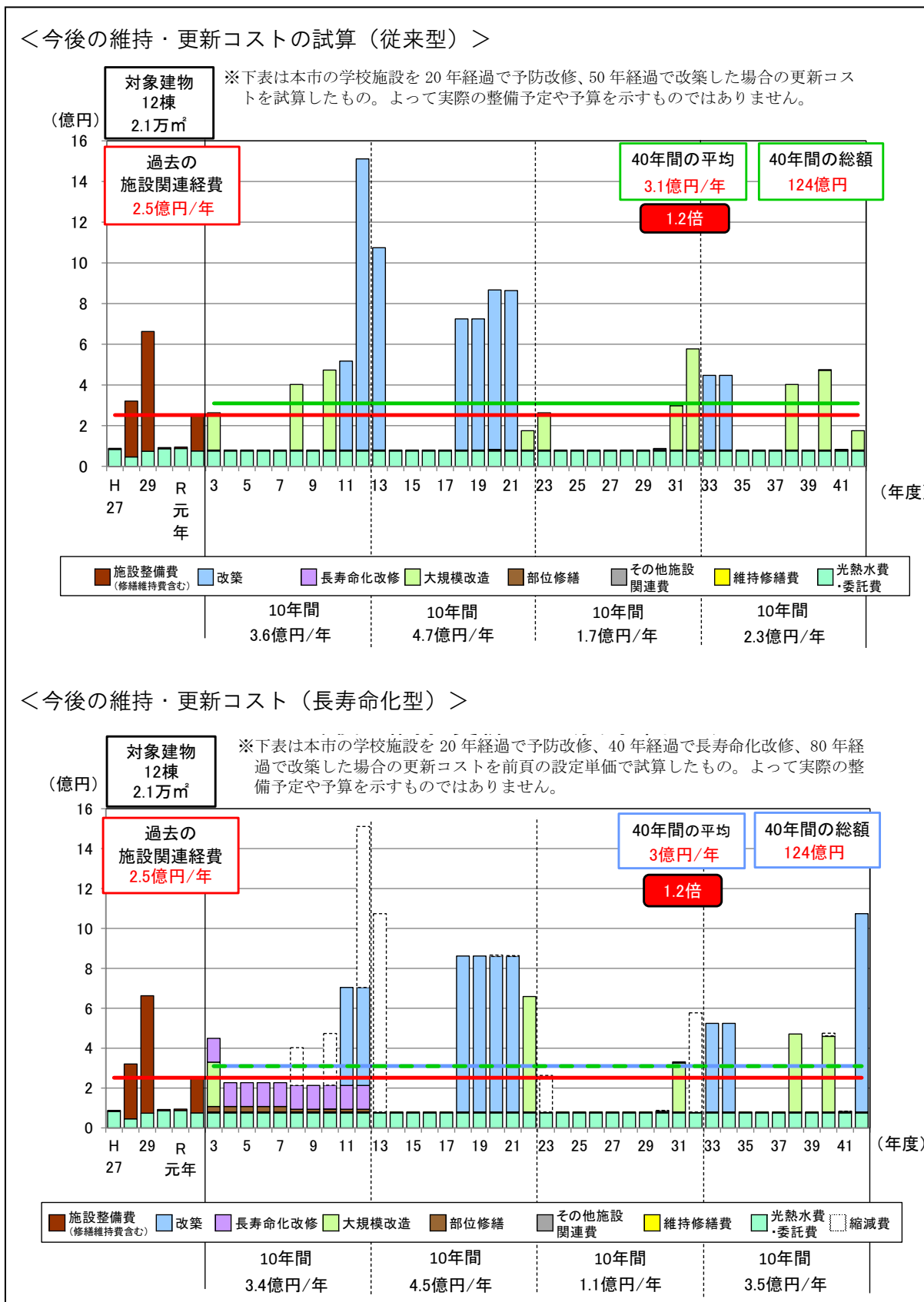
	従来型		長寿命化型		備考
	周期	工事期間	周期	工事期間	
改築	50年	2年	80年	2年	※実施年数より古い建物の改築を10年以内に実施
長寿命化改修	-	-	40年	2年	※実施年数より古い建物の改築を10年以内に実施
予防改修	20年	1年	20年	1年	※改築、長寿命化改修の前後10年間は実施しない

⑤ 部位修繕

評価	試算条件	
D評価	今後5年以内に部位修繕を実施	ただし、改築・長寿命化改修・予防改修を今後10年以内に実施する場合は除く
C評価	今後10年以内に部位修繕を実施	
A評価	今後10年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く	

(3) 維持管理コストの試算

長寿命化改修等により、施設の更新周期を50年から80年とした場合のコスト試算は以下となります。当初30年間は長寿命化によるコスト削減が見込めますが、令和42年に夕張中学校の改築周期となることから40年間の総額で見るとほぼ同程度の維持管理コストとなります。



4 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準等

(1) 改修等の整備水準

第3章2(1)の基本的な方針で示した「施設の安全性の確保及び財政負担の軽減・平準化の観点から、適切な時期に予防改修及び長寿命化改修」を実施し、目標耐用年数を概ね80年とした施設の長寿命化を図ります。

長寿命化改修では、単に物理的な不具合を直すのみでなく、ライフラインの更新等により建物の耐久性を向上させるとともに、建物の機能や性能を現在の学校が求めている水準まで引き上げることを目指します。

(2) 建物の耐久性の向上

今後の改修にあたっては、ライフサイクルコストの向上や建物のエネルギー効率の向上、環境負荷の低減等の観点を取り入れて、下記の考え方で耐久性の向上を図ります。

図表 改修等の整備水準

部位	耐久性の向上策
屋根・屋上	◇屋根・屋上においては、躯体や建物内部への漏水を防止し、建物の劣化を押さえるため、適正時期での屋根や、屋上防水の防水材更新を全面的に行います。 ◇屋根の更新については、ガルバリウム鋼板等の耐久性の高い素材での更新や、耐久性や遮熱性の高い塗装による改修や修繕を行います。 ◇屋上防水の防水材については、既存の防水仕様や今後の供用年数等を考慮し、塗膜防水、シート防水及びアスファルト防水等の中から、最も費用対効果の高いものを選定します。
外 壁	◇外壁については、ひび割れ、浮き及び剥落等の劣化を未然に防止するため、各対象建物の状況に応じ、壁面材で部分的又は全面的に被覆し、躯体の劣化現象の進行を遅らせます。 ◇壁面材の材料は、既存仕様及びその他断熱性能を勘案の上、耐候性の高い塗膜仕上げやモルタル補修の他、板金や金属系サイディング等の耐久性の高い素材での被覆等、最も費用対効果の高いものを選定します。
電気設備 機械設備	◇設備機器の老朽化対策では、日常点検、消耗部品の定期交換によって故障を未然に防ぐとともに、必要に応じて物理的耐用年数の長い機器を選定します。また、設備配管の老朽対策では、更新工法等、今後のメンテナンスの容易さや、供用年数の見通し等を勘案し、最も費用対効果の高い対策工法を選定します。

(3) 維持管理の項目・手法等

長寿命化を図るためには、定期的な改修工事を行うだけでなく日常的、定期的に施設の点検や、清掃、情報管理を行う必要があります。日常的、定期的に維持管理を行うことで建物の劣化状況を詳細に把握でき、より早急に異常に気付くことができるため、施設に応じた維持、改修内容や時期を計画に反映することができます。

図表 維持管理の項目・手法等

維持管理分類	項目	内容	頻度	主な担当
日常的な点検	清掃	快適な環境を維持しながら建物の仕上材や機器の寿命を延ばすため、塵や汚れを除去する	毎日	施設管理者
	日常点検	機器及び設備について、異常の有無、兆候を発見する。	毎日	施設管理者
定期的な点検	自主点検	機器及び設備の破損、腐食状況を把握し、修理・修繕等の保全計画を立てる	周期を設定	施設管理者 施設設置者
	法定点検	自主点検では確認できない箇所や法的に定められた箇所に関して、専門業者により点検する。	周期を設定	専門業者
臨時点検	臨時点検	日常、定期点検以外に行う臨時的な点検	故障時等随時実施	施設管理者 施設設置者 専門業者
情報管理	施設台帳の整備	点検・工事の履歴を作成し、各施設の現状把握や計画への反映に活用する。	各点検、改修、修繕後に実施	施設設置者

※施設管理者は主に各学校職員等、施設設置者は主に夕張市役所（教育委員会）等

第4章 長寿命化の実施計画

1 改修等の優先順位づけと実施計画

(1) 改修等の優先順位づけ

改修等の優先順位については、施設の築年数や劣化状況評価を基本として、改築の必要性、予算の平準化、長寿命化改修の効率性等を総合的に勘案し決定します。

下表は改修等の優先順位をグループとしたものですが、最も優先順位の高いグループ1については、昭和60年（1985年）に整備されこれまで改修等を実施しておらず、劣化箇所も多数見受けられるゆうばり文化スポーツセンターを対象とし、概ね10年以内に予防改修を検討します。

グループ2に属するゆうばり小学校及び夕張中学校については、平成21～22年（2009～2010年）にかけ大規模（老朽）改修を実施していますが、今後10～20年の間に次期改修周期を迎える他、大規模改修時に対象外であった設備等の老朽化が見られることから、長寿命化等の改修を検討します。

なお、予防改修、長寿命化改修以外にも、早急に改修が必要と思われる設備や、教育環境の改善、社会的なニーズに対応するための改修については、財政状況を考慮した上で計画的に個別修繕等を行います。

優先順位	対応方針	対象施設
グループ 1	◇計画期間内を目途とした改修等の検討および実施	【予防改修等】 ・ゆうばり文化スポーツセンター
グループ 2	◇概ね 20 年以内を目途とした改修等の検討および実施	【長寿命化改修等】 ・ゆうばり小学校 ・夕張中学校 【予防改修等】 ・夕張市平和運動公園施設 ・夕張市清水沢プール（脱衣所） ・夕張市石炭博物館
グループ 3	◇良好な施設の維持に向け、適切な時期での予防改修等の実施	・ゆうばり丘の上こども園
グループ 4	◇良好な施設の維持に向け、適宜、個別修繕等により施設を維持	・夕張市清水沢プール ・ゆうばり文化スポーツセンター（テニス施設） ・ゆうばり文化スポーツセンター（相撲場） ・夕張市石炭博物館（模擬坑道） ・夕張市平和運動公園施設（屋外トイレ）

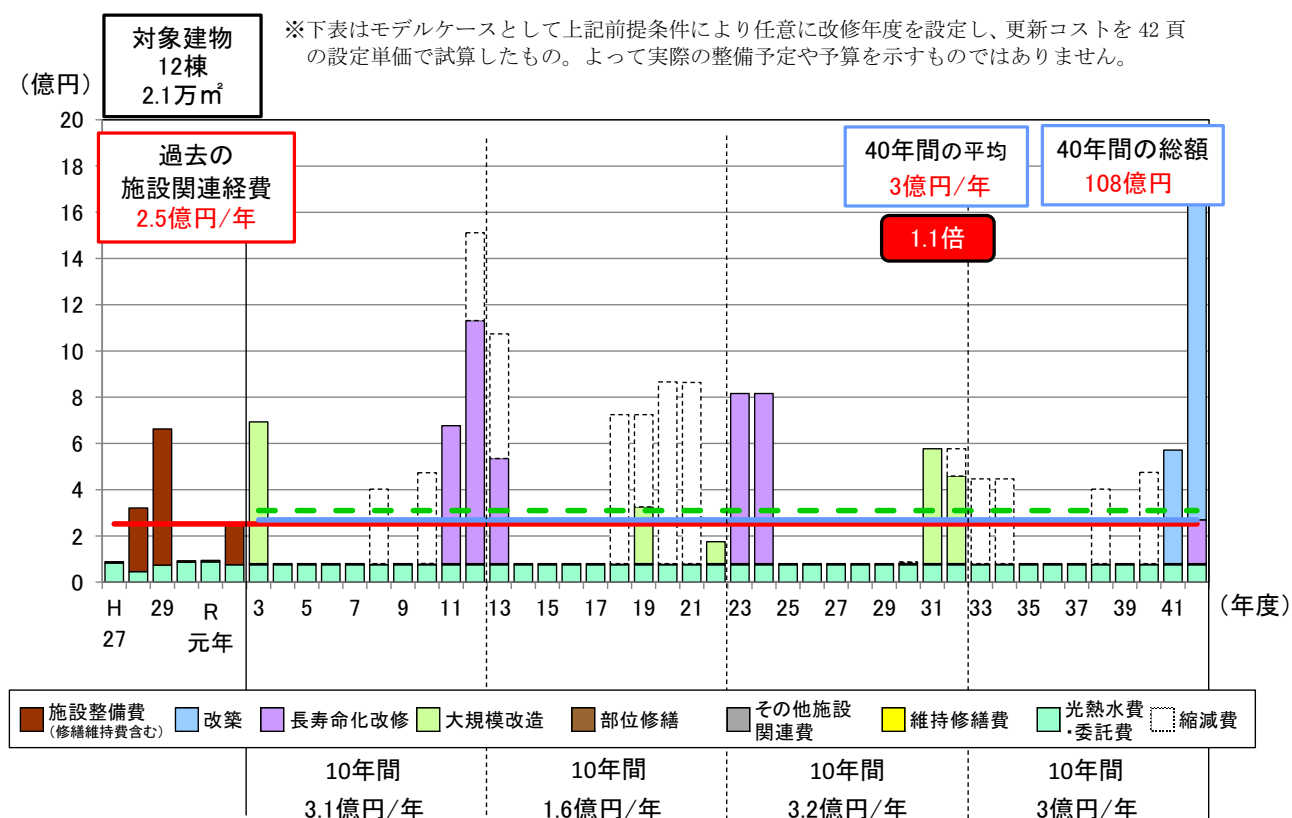
今後 5 年間の実施計画（個別修繕等）	
ゆうばり小学校、夕張中学校	・照明設備の LED 化
夕張市石炭博物館	・模擬坑道の再開に向けた復旧工事の実施 ・石炭博物館電気設備に含まれている低濃度 PCB 処分に伴う機器更新
夕張市平和運動公園野球場	・スコアボードの老朽化に伴う電気設備改修
ゆうばり文化スポーツセンター	・電気設備の老朽化に伴う設備更新（照明設備の LED 化）
夕張市清水沢プール	・プール内壁の塗装補修の実施

(2) 優先順位グループを反映した長期管理モデルケースの想定

改修等の優先順位グループを反映し、以下の前提条件に基づいた長寿命化型の維持管理を行った場合、40年間の総額コストは、43頁の試算結果よりも約16億円の縮減となります。

＜前提条件＞	
◇	従来型の概ね50年での改築に対し、築後20・60年経過で予防改修、40年経過で長寿命化改修、80年経過で改築を実施すると想定
◇	改修年度超過施設は令和3年（2021年）に実施と想定
◇	グループ4施設については、適宜個別修繕対応とし、修繕費用については、以下の想定コストグラフに計上している年470万円/年に含まれるものとする（※修繕費用についてはP18参照）

図表 モデルケース想定コスト



図表 優先順位グループを反映した長期管理モデルケース

種別	施設名	経過期間					計画期間		構想期間					
		1965-80	1981-90	1991-00	2001-10	2011-20	1期(2021~30)		2期(2031~40)		3期(2041~50)		4期(2051~60)	
		(S40-55)	(S56-H2)	(H3-12)	(H13-22)	(H23-R2)	前期	後期	2031-35	2036-40	2041-45	2046-50	2051-55	2056-60
学校教育施設	1 ゆうばり小学校	①校舎		S63建設		H22大規模		長寿命 2030				予防 2050		
		②体育館		S63建設		H22大規模		長寿命 2030				予防 2050		
	2 夕張中学校	③校舎	S55建設			H21大規模		長寿命 2029				予防 2049		改築 2060
		④体育館	S55建設			H21大規模		長寿命 2029				予防 2049		改築 2060
社会教育施設等	3 ゆうばり丘の上こども園	⑤園舎				R2建設				予防 2040			長寿命 2060	
	4 夕張市石炭博物館	⑥本館	S54建設			H28大規模				予防 2037			改築 2059	
		⑦地下展示場	S54建設			H28大規模				予防 2037			改築 2059	
	5 夕張市平和運動公園施設	⑧センタースタッド			H13建設		予防 2021			長寿命 2041				
		⑨屋外トイレ			H10建設		予防 [2018]			長寿命 2041				
	6 ゆうばり文化スポーツセンター	⑩スポーツセンター	S61建設				予防 [2006]			長寿命 2041				
		⑪テニス施設	S63建設				予防 [2008]			長寿命 2041				
7 夕張市清水沢プール	⑫脱衣所				H20建設		予防 [2028]				長寿命 2048			

※表中記載年度は改修想定年度を示す。[]は想定年度経過を示す。

2 長寿命化の継続的運用方針

(1) 情報基盤の整備と活用

本計画の推進にあたり、学校施設等の状況や改修履歴などをデータとして蓄積し、適切な時期に更新することが重要となります。

次の情報を適切に管理し、学校施設等の状況を把握することで、今後の改修内容や時期を総合的に判断します。

各データは、施設状況に変化が生じた際や、改修、報告などが行われた際に適宜更新するほか、毎年度、更新の有無を含め内容を確認します。

情報基盤	内容等
◇学校施設台帳	・学校施設の基本情報
◇学校施設別営繕履歴	・改修、修繕の履歴（台帳）
◇定期・法定点検報告	・点検時の指摘事項等
◇学校施設実態調査	・学校からの修繕要望等（各年）
◇劣化状況調査結果	・施設の劣化状況及び相対的な老朽度の評価（概ね5年更新）

(2) 推進体制等の整備

本計画策定後も、学校施設等の老朽化は進行し状況は変化していきます。

また、学校施設等に求められる機能や水準も変わっていくことが想定されます。

学校施設等の整備は本市の公共施設の維持管理費の中でも、多大なウェイトを占めるほか、その役割は教育の場のみならず、地域コミュニティ、災害対応（避難）等も求められます。

よって、これら学校施設等の状況を把握し、多岐に渡る役割や性能の維持と課題の解決に向けては、関係部署との連携をより一層図り、推進体制を充実させていきます。

(3) フォローアップ

本計画を効率的かつ効果的に進めていくためには、PDCA サイクルを確立することが重要となります。

事業の進捗状況、情報基盤から得られる老朽化に関する状況・評価などの結果、また、各学校の子どもの数等の状況を踏まえた上で、必要な作業を行います。

PDCA サイクル	
<Plan>	① 施設の状況を把握した上で、それを踏まえた整備計画を策定
<Do>	② 計画に基づく日常的な維持管理や適切な改修を実施
<Check>	③ 整備による効果を検証し、整備手法の改善点などを整理
<Action>	④ 次期計画に反映